

2019 年度北近畿地域連携会議会員総会

次 第

開催日時 5月28日(火) 午後3時～午後5時

会場 ホテルロイヤルヒル福知山&スパ 金蘭の間

1 開会

司会：杉岡 秀紀（福知山公立大学北近畿地域連携センター長）

2 開会挨拶

代表幹事 井口 和起（福知山公立大学学長）

3 来賓紹介

4 来賓挨拶

京都府中丹広域振興局 局長 綾城 義治 様

5 議長の選出

6 議事

6-1 報告事項

- (1) 第1期北近畿地域連携会議活動報告 (資料1)
- (2) 第2期研究テーマ公募エントリーの選定結果 (資料2-1・2-2)
- (3) 総務省「関係人口創出・拡大事業」モデル事業について (資料3)
- (4) 福知山公立大学情報学部の設置認可申請について (別紙)

6-2 審議事項

- (1) 役員を選任(案)について
- (2) 第2期北近畿地域連携会議 運営方針(案) (資料4)
- (3) 2019年度事業計画(案)及び予算(案) (資料5-1・5-2・5-3)
- (4) 第2期の研究会の編成方針(案) (資料6)

- (5) 北近畿地域連携会議の健全な財政基盤づくり (資料7)
- (6) 会員アンケートの設計にかかる質問項目(案)について (資料8)
- (7) その他
年号表記の特例について (資料9)

7 閉会挨拶

副代表幹事 森屋 松吉 (京都北都信用金庫理事長)
(閉会后交流会を予定しております)

(敬称略)

【配布資料】

- 資料 1 第 1 期研究活動のまとめ
- 資料 2-1 北近畿地域連携会第 2 期研究テーマ公募エントリー結果集計表
- 資料 2-2 「北近畿地域連携会議」第 2 期研究テーマ公募にかかる選考委員会 結果報告
- 資料 3 「関係人口創出・拡大事業」モデル事業企画提案書（全体概要）
- 別冊 1 2020 年度福知山公立大学情報学部（設置認可申請中）パンフレット

- 資料 4 第 2 期（2019～2020 年度）の北近畿地域連携会議運営方針（案）
- 資料 5-1 2019 年度北近畿地域連携会議 事業計画（案）
- 資料 5-2 北近畿地域連携会議の主要事業のスケジュール(案)
- 資料 5-3 北近畿地域連携会議 2019 年度予算（案）
- 資料 6 第 2 期の研究会の編成方針（案）
- 資料 7 北近畿地域連携会議の健全な財政基盤づくりについての提案
- 資料 8 会員アンケートの設計にかかる質問項目(設問のテーマ)（案）
- 資料 9 年号表記の特例について

北近畿地域における
高校生の郷土意識に関するアンケート
調査結果報告書

2019年3月

北近畿地域連携会議

目 次

1. 北近畿地域における高校生の郷土意識に関するアンケート調査(以下「アンケート調査」と言う)について
2. アンケート調査の単純集計結果(単純集計)
3. アンケート調査のクロス分析結果
4. アンケート調査結果の総括
5. アンケート調査票
6. 謝辞

1. 北近畿地域における高校生の郷土意識に関するアンケート調査について

(1) 調査の目的

人口減少時代を迎えて若者を中心とする人口流出が止まらず厳しい状況にある北近畿地域において、流出世代の中核となっている高校生の郷土に対する意識やキャリア形成に関する意識等を明らかにするための基礎データの収集と分析を行い、若者が住みやすく、魅力を感じる地域社会のあり方を検討する基礎資料とすること。

(2) 調査に関する基本情報

①調査対象（調査参加者数順）

京都府立福知山高等学校、福知山淑徳高等学校、京都府立久美浜高等学校
兵庫県立豊岡高等学校、兵庫県立出石高等学校、兵庫県立和田山高等学校、
の6校に在籍する2年生全員

	数調査	性別		
		性男	性女	答回無
全体	793 (%)	355 44.8	415 52.3	23 2.9
学校名	福知山高 等学校	192 47.9	92 51.0	2 1.0
	豊岡高等 学校	187 45.5	85 54.5	0 0.0
	和田山高 等学校	101 48.5	49 50.5	1 1.0
	久美浜高 等学校	80 63.8	51 36.3	0 0.0
	淑徳高等 学校	125 26.4	33 62.4	14 11.2
	出石高等 学校	108 41.7	45 52.8	6 5.6

②サンプル数 804 うち有効数 793

③調査期間 平成30年2月～3月

(3) 今回の北近畿地域の高校生を対象とするアンケート調査の特徴

- ①京都府と兵庫県にまたがる、初めての府県横断型の高校生の郷土意識に関する調査であること。
- ②本アンケートは、各高等学校とも2年生全員が対象の調査である。

(4) 本報告における統計処理の方法

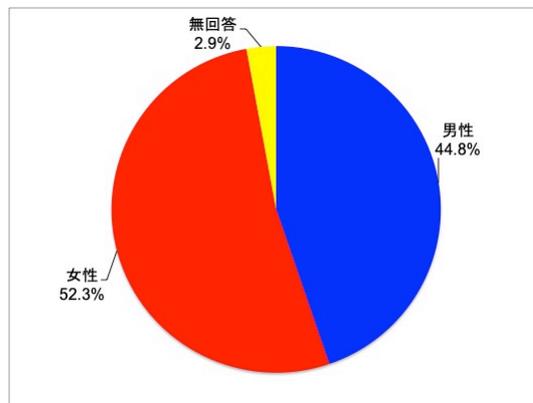
解析したデータの有意差については、「Microsoft Office for Mac 2011 Excel」を用いて計算した。

2. アンケート集計結果（単純集計）

（1）性別

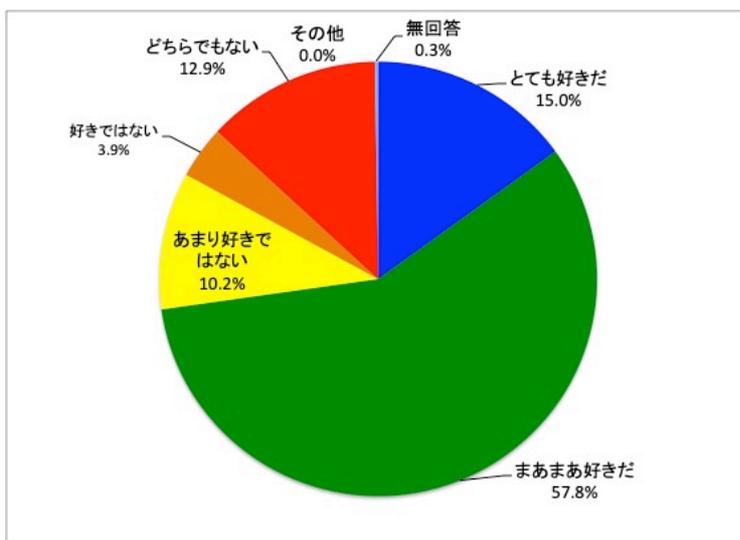
本調査に回答した生徒の性別は以下の通り

調査数	性別			
	回答数	男性	女性	無回答
793	793	355	415	23
	(%)	44.8	52.3	2.9



（2）住んでいるまちに対する好感度

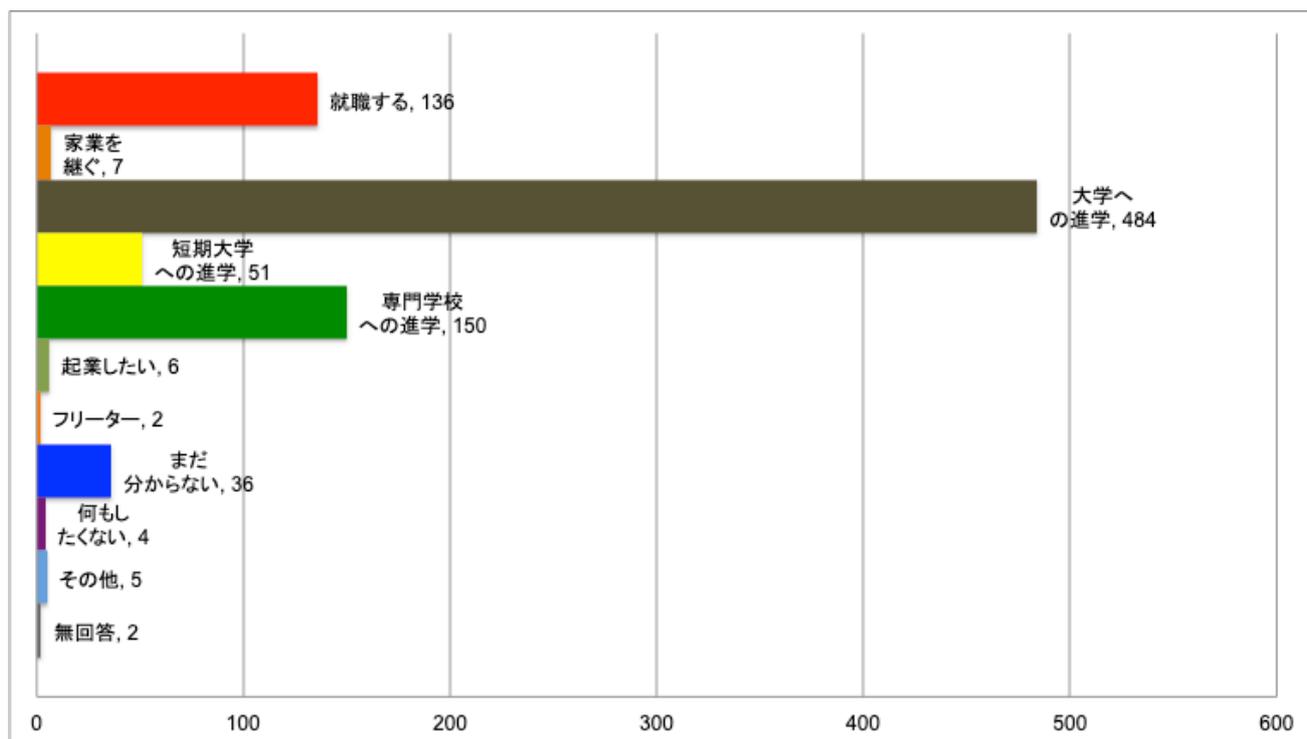
調査数	住んでいるまちに対する好感度							
	回答数	好とても	好きだ	あまり好き	好きでは	ない	どちらでも	その他
793	793	119	458	81	31	102	0	2
	(%)	15.0	57.8	10.2	3.9	12.9	0.0	0.3



まちに対する好感度(とても好きだ、まあまあ好きだの合計)は、全体で72.8%であり、好感度は高いという結果であった。ただし、「まあまあ好きだ」という回答が60%近くあるが、あとの質問に対する回答では、それが必ずしも直接的に地域への定着や将来の地域への還流に結びつくことにはなっていない。

(3) 高校卒業後に選びたい進路(複数回答可)

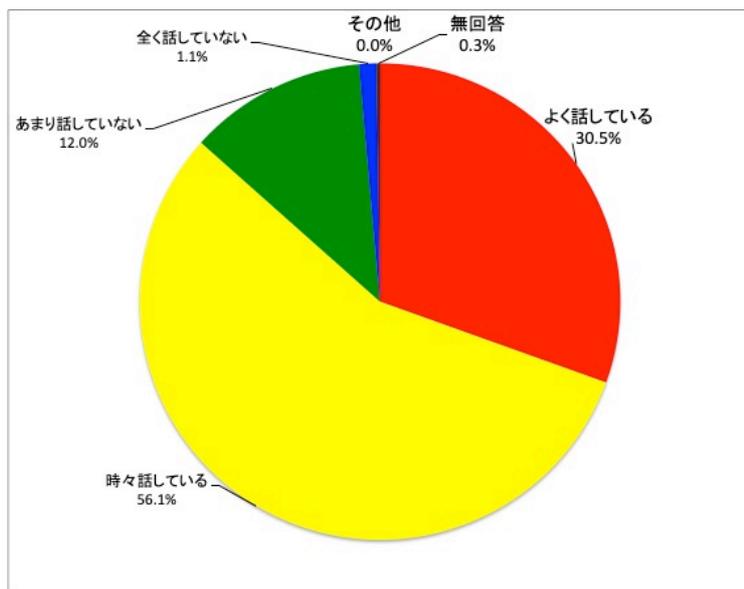
調査数	高校卒業後に選びたい進路(複数回答可)											
	回答数	就職する	継家業を	進大学への	へ短期進大学	へ専門進学校	した起業い	タフリー	らまだ分	かない	く何もした	その他
793	883	136	7	484	51	150	6	2	36	4	5	2
	(%)	17.2	0.9	61.0	6.4	18.9	0.8	0.3	4.5	0.5	0.6	0.3



卒業後の進路については、①大学への進学、②専門学校への進学、③就職の順となっている。大学への進学希望者の比率が61%となっているが、この数値は北近畿地域全体の大学進学率(44%)と比較して高い。この原因は、アンケート対象とした学校の選択によるもので、対象となった高等学校の進学率が比較的高いことが影響していると考えられる。また、高校2年生を対象とした意識調査であり、実際の進学率とは異なる点、考慮する必要がある。

(4) 高校生と保護者・親族との進路についての話し合い状況

調査数	高校生と保護者・親族との進路についての話し合い状況						
	回答数	よく話している	時々話している	あまり話していない	全く話していない	その他	無回答
793	793	242	445	95	9	0	2
	(%)	30.5	56.1	12.0	1.1	0.0	0.3

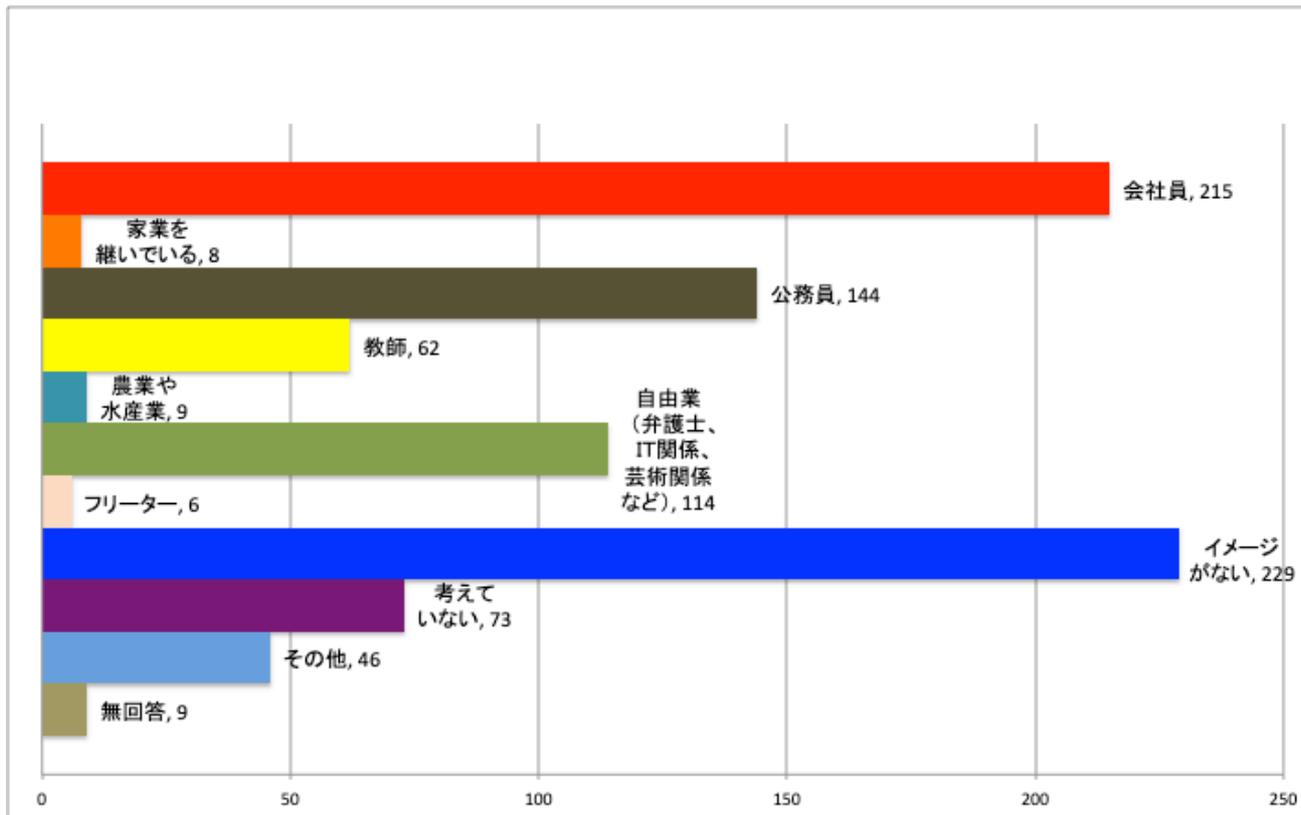


卒業後の進路についての保護者・親族との話し合いについては、全体の86.6%から”よく話している”、”時々話している”という回答を得た。高校生の卒業後の進路に関する相談や情報の収集対象は、一般的に高等学校の進路指導担当教員、友人、及び家族等の親族であるとされており、この結果からも、家族等親族への相談について確認された。

※本調査における保護者の意見は、すべて高校生が受け止めている保護者等の意見である。

(5) 10年後に何をしていると思うか（複数回答可）

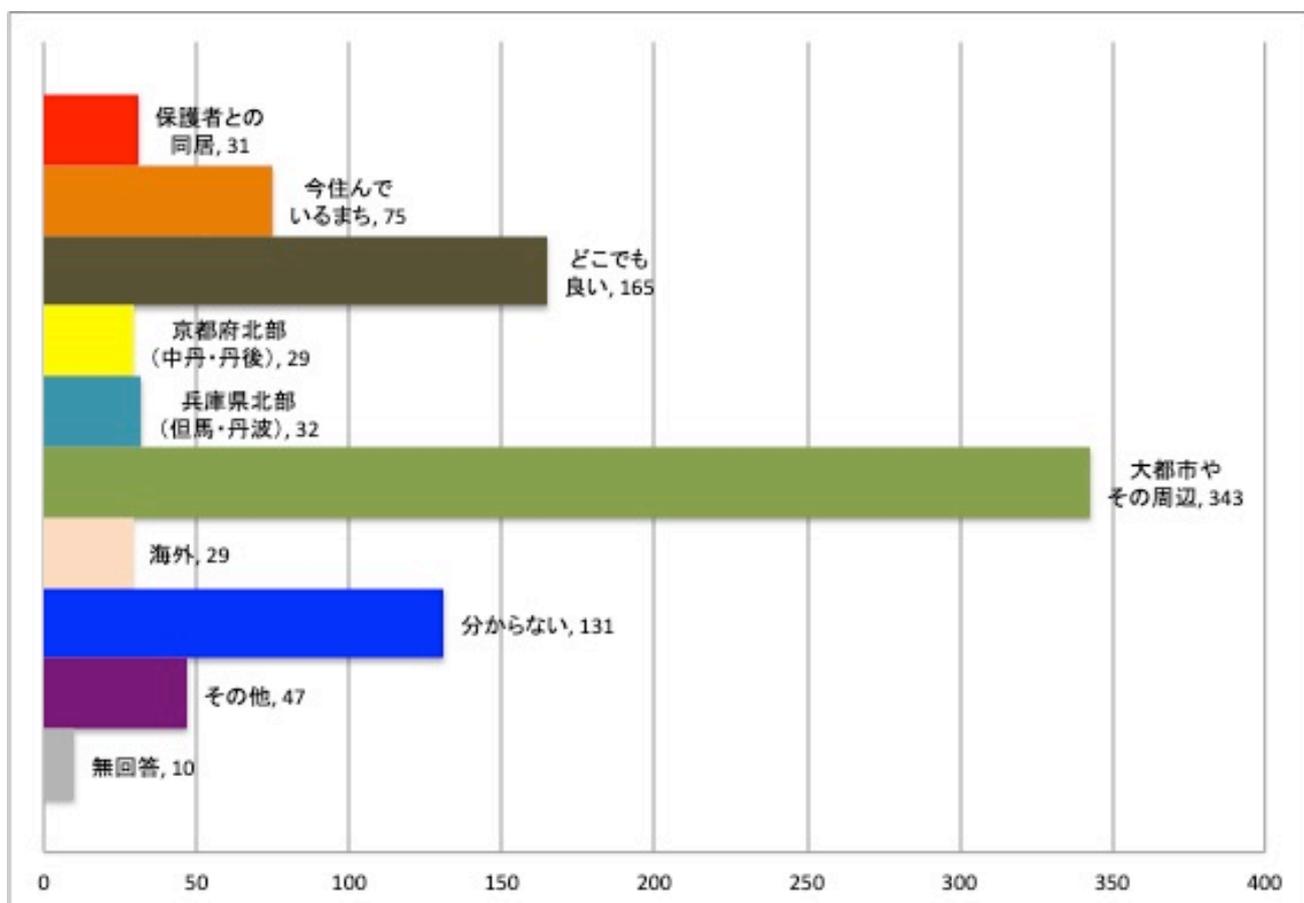
調査数	10年後に何をしていると思うか（複数回答可）											
	回答数	会社員	継業を している	公務員	教師	農業や 水産業	自由業 （弁護士、 IT関係、 芸術関係 など）	フリーター	イメージ がない	考えて いない	その他	無回答
793	915	215	8	144	62	9	114	6	229	73	46	9
	(%)	27.1	1.0	18.2	7.8	1.1	14.4	0.8	28.9	9.2	5.8	1.1



高校2年生のキャリア志向は、①会社員、②公務員、③自由業、④教師の順であるが、キャリアイメージがまだない生徒が28.9%と最も多いという結果であった。

(6) 高校卒業後に住みたいところ（複数回答可）

調査数	高校卒業後に住みたいところ(複数回答可)										
	回答数	同保護者との同居	今住んでいるまち	どこでも良い	後(京都府・中丹・丹波)	波(兵庫県・但馬・丹波)	その大都市やその周辺	海外	分からない	その他	無回答
793	892	31	75	165	29	32	343	29	131	47	10
	(%)	3.9	9.5	20.8	3.7	4.0	43.3	3.7	16.5	5.9	1.3



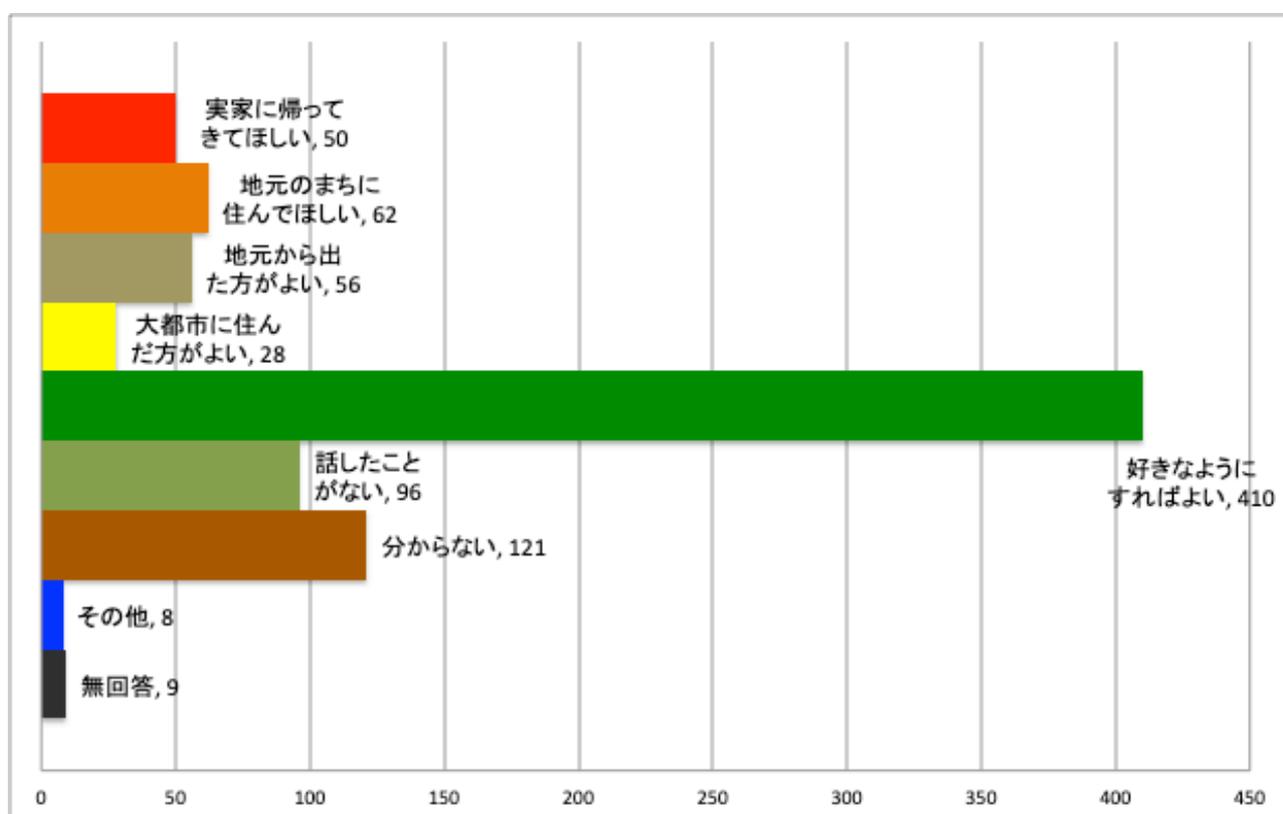
質問 2 で得られた地元への高い好感度が、「高校卒業後の住みたいところ」という質問に対して地元志向という形では反映されていない。高校卒業後に住みたいところについては、「大都市やその周辺」が全体の 43.3% を占めており、ついで「どこでも良い (20.8%)」「分からない (16.5%)」「今住んでいるまち (9.5%)」という結果であった。

このことは、就職先としては大都市周辺への志向が高く、また、進学の間では、平成 28 年まで北近畿地域に有力な大学が無く、事実上、大都市以外に選択肢が無かったことが大きく影響している。

今後、豊岡市で計画が進んでいる観光・芸術系専門職大学や、平成 32 年に設置を予定している福知山公立大学情報学部（仮称）、さらには平成 30 年度秋から開設された京都工芸繊維大学の福知山キャンパスなどの相乗効果が高校生にどのような意識変化をもたらすかが注目される。

(7) 就職後・大学卒業後の住む場所についての保護者・親族の意見（複数回答可）

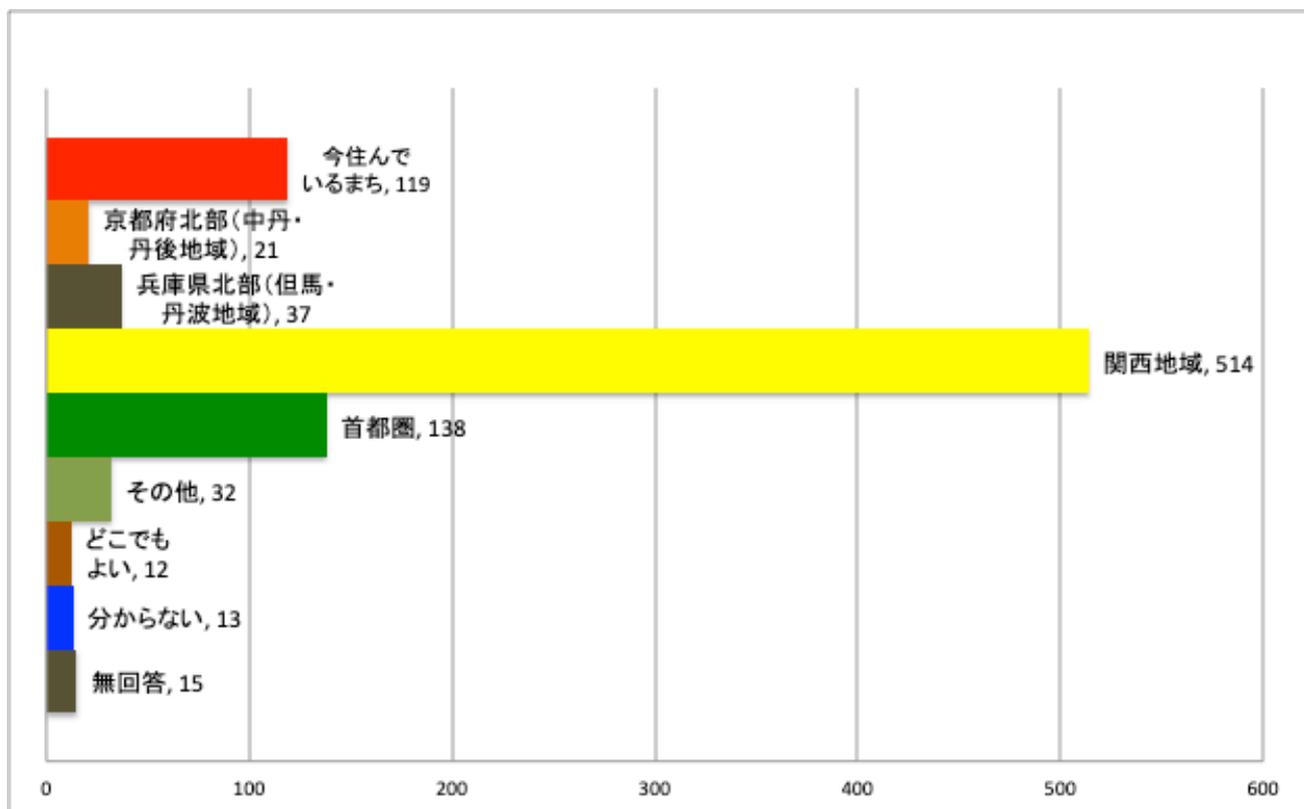
調査数	就職後・大学卒業後の住む場所についての保護者・親族の意見（複数回答可）									
	回答数	実家に帰ってほしい	地元でのほまちに	地元から出た方がよい	大都市にいい	好きなように	話したことがない	分からない	その他	無回答
793	840	50	62	56	28	410	96	121	8	9
	(%)	6.3	7.8	7.1	3.5	51.7	12.1	15.3	1.0	1.1



就職後・大学卒業後の居住地に関する保護者・親族の意見については、好きなようにすればよい(51.7%)が圧倒的に多い。次いで「分からない(15.3%)」、「話したことがない(12.1%)」と続いており、保護者等から具体的な居住地に関する意見が伝えられていない傾向がある。このことについては、「好きなようにすればよい」と言っている保護者等の意見は、高校生の持つ可能性を發揮させてやりたいという思いが込められたものと考えられ、保護者が地域の将来に対する思いや期待を積極的に伝えようとしているのかどうかまでは分からない。その点については別途異なる角度からの保護者の意識の解明が必要と思われる。

(8) 10年後に住んでいたいところ(複数回答可)

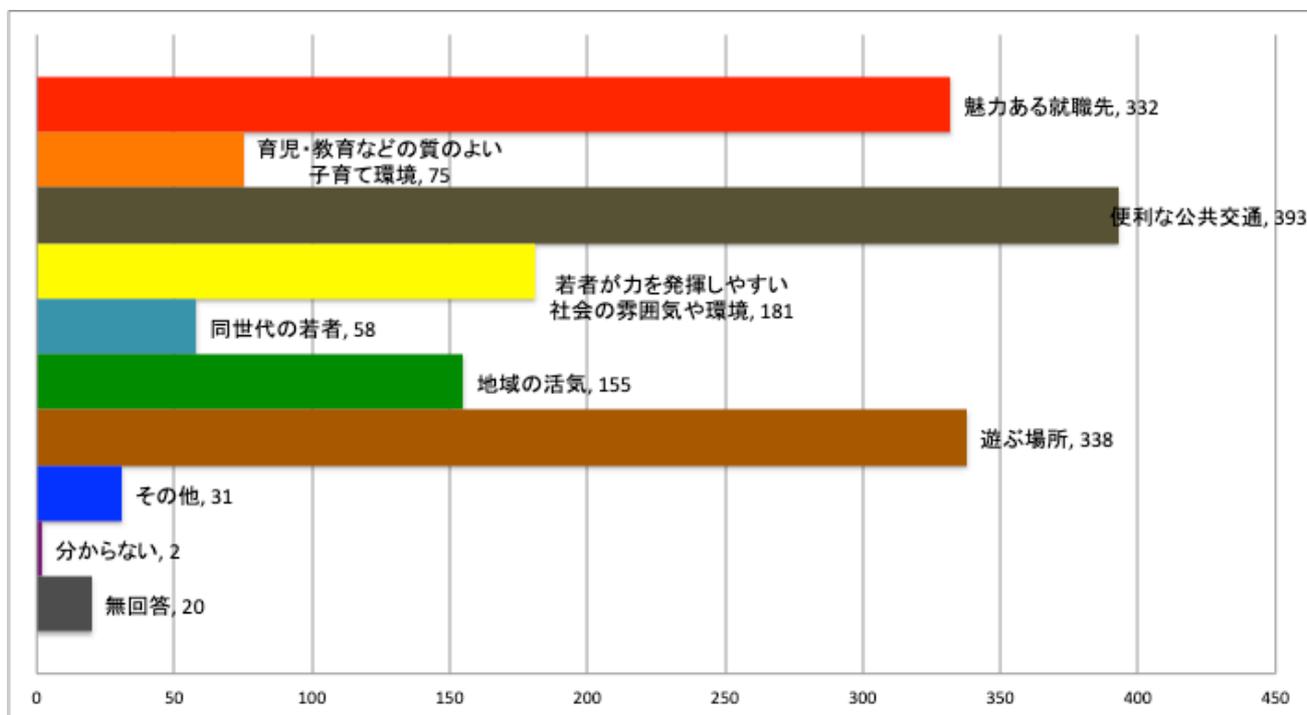
調査数	10年後に住んでいたいところ(複数回答可)									
	回答数	今住んでいるまち	京都府北部(中丹・丹後地域)	京都府中部(丹波地域)	兵庫県北部(但馬・丹波地域)	関西地域	首都圏	その他	どこでもよい	分からない
793	901	119	21	37	514	138	32	12	13	15
	(%)	15.0	2.6	4.7	64.8	17.4	4.0	1.5	1.6	1.9



10年後に住んでいたいところについては、回答の多い順に「関西地域(64.8%)」「首都圏(17.4%)」「今住んでいるまち(15.0%)」という結果になった。やはり質問2における地元に対する好感度と実際に定着することとの意識の乖離は大きいことが分かる。また、北近畿地域の高校生のキャリア意識の特徴としては、大都市圏と意識されているのが関西地域に集中しており、首都圏は比較的少ないことである。

(9) 今住んでいる地域に不足しているもの(3つまで回答可)

調査数	今住んでいる地域に不足しているもの(3つまで回答可)										
	回答数	先魅力ある就職	子どもの育つ・教育の質・環境	通利な公共交通	境の揮若者す力が発	同世代の若者	地域の活気	遊ぶ場所	その他	な分から	無回答
793	1585	332	75	393	181	58	155	338	31	2	20
	(%)	41.9	9.5	49.6	22.8	7.3	19.5	42.6	3.9	0.3	2.5



今住んでいる地域に不足しているものは何かという点については、回答の多い順に「便利な公共交通(49.6%)」「遊ぶ場所(42.6%)」「魅力ある就職先(41.9%)」となった。この結果は、北近畿地域に特有の貧弱な公共交通機関の問題以外は、若者の定着について論じられる、①魅力ある就職先、(質の良い雇用)、②便利な生活環境や魅力ある遊び、③子育て・教育環境と基本的には同じ傾向になっている。

3. クロス分析結果

(1) クロス分析について

クロス分析の項目は以下の質問項目すべてについて実施した。ただしここで取り上げた分析結果は高校生の地域社会に対する意識の特徴が見えやすいもののみとし、コメントを付している。

- ① 性別
- ② あなたは現在住んでいるまちが好きですか。
- ③ あなたの卒業後の進路に何を選びたいと思いますか
- ④ あなたは、あなたの保護者・親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか
- ⑤ あなたは 10 年後何をしていると思いますか
- ⑥ あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか
- ⑦ あなたの保護者や親族は、あなたの就職後や大学卒業後の住む場所について、どのような意見を持っていますか。
- ⑧ あなたは 10 年後どこに住んでいたいと思いますか
- ⑨ あなたは、あなたが今住んでいる地域に不足しているものは何だと思いますか。

(2) 集計方法について

該当する項目に回答したものに対してカウントを行なった。

小数点以下、第 2 位切り捨て

(3) 特徴あるクロス分析結果

1. 性別×あなたは現在住んでいるまちが好きですか。(住んでいるまちに対する好感度)

		性別		
		男性	女性	計
あなたが好きですか。 あなたは現在住んでいるまちが好きですか。	とても好きだ	58	58	116
	まあまあ好きだ	200	248	448
	あまり好きではない	33	45	78
	好きではない	12	17	29
	どちらでもない	52	47	99
	その他	0	0	0
	計	355	415	770

男性、女性とも住んでいるまちに対する好感度は高い。「とても好きだ」と「まあまあ好きだ」を合わせると、男性72.6%、女性73.7%で、性別による違いは見られない。

2. 性別×あなたは卒業後の進路に何をしたいと思いますか(複数回答可)(高校卒業後に選ばれる進路(複数回答可))

		性別		
		男性	女性	計
思いですか(複数回答可) あなたは卒業後の進路に何をしたいと思いますか	就職する	69	62	131
	家業を継ぐ	6	1	7
	大学への進学	237	243	480
	短期大学への進学	11	39	50
	専門学校への進学	57	87	144
	起業したい	4	1	5
	フリーター	0	2	2
	まだ分からない	15	18	33
	何もしたくない	1	2	3
	その他	4	1	5
	計	404	456	860

卒業後の進路については、男女とも大学への進学希望が圧倒的に多い。また、男性では「家業を継ぐ」と「起業をしたい」が比較的多く、女性では「短期大学への進学」と「専門学校への進学」が比較的多い傾向が見られる。

3. 性別×あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。（高校生と保護者・親族との進路についての話し合い状況）

		性別		
		男性	女性	計
あなたが、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。	よく話している	83	153	236
	時々話している	216	216	432
	あまり話していない	51	42	93
	まったく話していない	5	4	9
	その他	0	0	0
	計	355	415	770

保護者・親族との話し合いの状況については「よく話している」、「時々話している」を合わせると、男性85.1%、女性89.5%と高い結果になっている。

4. 性別×あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）（高校卒業後に住みたいところ（複数回答可））

		性別		
		男性	女性	計
あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）	保護者との同居	9	20	29
	今住んでいるまち	37	35	72
	どこでも良い	93	63	156
	京都府北部（中丹・丹後）	15	13	28
	兵庫県北部（但馬・丹波）	11	21	32
	大都市やその周辺	128	210	338
	海外	11	18	29
	分からない	64	63	127
	その他	18	27	45
計	386	470	856	

高校卒業後に住みたいところについては、特に女性が「大都市やその周辺」及び「保護者との同居」を選択する傾向が強い。その一方で、男性は「どこでもよい」と考えている傾向が強い。

5. 性別×あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）（10年後に住んでいたいところ（複数回答可））

		性別		
		男性	女性	計
可 あなた は10年 後どこ に住ん で いた いと思 います か（複 数回 答	今住んでいるまち	61	51	112
	中丹、丹後地域	14	6	20
	但馬、丹波地域	19	18	37
	関西地域	208	296	504
	首都圏	66	69	135
	その他	16	15	31
	どこでもよい	8	4	12
	分からない	8	4	12
	計	400	463	863

10年後の生活拠点について、女性は男性と比較して地元よりも「大都市圏(関西及び首都圏)」を選択する傾向がある。

6. あなたは現在住んでいるまちが好きですか。×あなたは卒業後の進路に何を選びたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは現在住んでいるまちが好きですか。						
		とても好きだ	まあまあ好きだ	あまり好きではない	好きではない	どちらでもない	その他	計
と思 いま すか （複 数回 答可 ）	就職する	25	80	11	3	17	0	136
	家業を継ぐ	4	3	0	0	0	0	7
	大学への進学	72	287	49	19	57	0	484
	短期大学への進学	12	25	6	2	6	0	51
	専門学校への進学	19	82	20	7	22	0	150
	起業したい	1	2	1	1	1	0	6
	フリーター	0	0	0	2	0	0	2
	まだ分からない	6	16	4	2	8	0	36
	何もしたくない	0	2	0	0	2	0	4
	その他	1	3	0	0	1	0	5
	計	140	500	91	36	114	0	881

住んでいるところへの好感度については、大学進学希望者では「どちらでもない」という回答が57と比較的多い。その理由としては、北近畿地域においては大学が非常に少なく、その結果大学の多い大都市周辺に関心が向けられる傾向があると考えられる。

7. あなたは現在住んでいるまちが好きですか。×あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。

		あなたは現在住んでいるまちが好きですか。						
		とても好きだ	まあまあ好きだ	あまり好きではない	好きではない	どちらでもない	その他	計
ますか。 あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。	よく話している	61	129	19	12	21	0	242
	時々話している	51	273	46	9	66	0	445
	あまり話していない	6	53	15	9	12	0	95
	まったく話していない	1	3	1	1	3	0	9
	その他	0	0	0	0	0	0	0
	計	119	458	81	31	102	0	791

保護者等と「よく話している」、「時々話している」回答が687人、全体の86.8%であり、一方で現在住んでいるまちに対する好感度が「とても好きだ」と「まあまあ好きだ」をあわせると577人、全体の72.9%となる。また「とても好きだ」についてみると、回答全体では保護者等と「よく話している」高校生は15.0%であるが、保護者等と「よく話している」ケースでは合計242人中61人、25.2%であり、「時々話している」の合計445人中51人11.4%と大きな差があることが注目される。

8. あなたは現在住んでいるまちが好きですか。×あなたは10年後何をしていますか（複数回答可）

		あなたは現在住んでいるまちが好きですか。						
		とても好きだ	まあまあ好きだ	あまり好きではない	好きではない	どちらでもない	その他	計
数 回 答 可 あ な た は 1 0 年 後 何 を し て い る と 思 い ま す か (複	会社員	38	120	27	9	21	0	215
	家業を継いでいる	4	4	0	0	0	0	8
	公務員	21	93	16	4	10	0	144
	教師	13	41	3	0	5	0	62
	農業や水産業	5	4	0	0	0	0	9
	自由業（弁護士、IT関係、芸術関係など）	22	67	10	4	11	0	114
	フリーター	1	3	0	1	1	0	6
	イメージがない	30	124	24	12	39	0	229
	考えていない	7	35	11	2	18	0	73
	その他	9	27	2	3	5	0	46
	計	150	518	93	35	110	0	906

現在住んでいるまちに対する好感度が高い高校生（「とても好きだ」＋「まあまあ好きだ」）のうち10年後に「家業を継いでいる」と考えている高校生は8人、1.1%、「農業や水産業」と考えている高校生は9人、1.3%となっている。

現在住んでいるまちに対する好感度と将来のキャリアに対する高校生の意識の間には特別な相関は見られない。ただし、この調査は高校2年生の時点での意識調査であったために、現在住んでいるまちに対する好感度が高い高校生であっても「イメージがない」及び「考えていない」と回答している可能性を考慮する必要があり、地元のまちに対する認識がどのように将来のキャリアと関係があるかについて考察するためには、この調査でだけでは不十分であることに注意が必要である。

9. あなたは現在住んでいるまちが好きですか。×あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは現在住んでいるまちが好きですか。						
		とても好きだ	まあまあ好きだ	あまり好きではない	好きではない	どちらでもない	その他	計
いますか（複数回答可） あなたは卒業後どこに住みたいと思	保護者との同居	7	18	3	2	1	0	31
	今住んでいるまち	26	43	3	0	3	0	75
	どこでも良い	25	106	11	2	21	0	165
	京都府北部（中丹・丹後）	8	13	1	1	5	1	29
	兵庫県北部（但馬・丹波）	12	17	1	0	2	0	32
	大都市やその周辺	35	196	55	18	39	0	343
	海外	9	15	0	3	2	0	29
	分からない	17	74	10	3	26	1	131
	その他	5	26	4	5	7	0	47
	計	144	508	88	34	106	2	882

高校卒業後に住みたいところについては、「大都市やその周辺」が総回答数の343と全回答数882の38.8%を占めている。また「とても好きだ」+「まあまあ好きだ」という回答の合計が652あるが、その中で「卒業後どこに住みたいですか」という設問に対する「保護者との同居」と「今住んでいるまち」という回答をあわせて94、14.4%であり、高校卒業後という時点では、地元定着志向は現在住んでいるところに対する高い好感度にもかかわらず低いといえる。

10. あなたは現在住んでいるまちが好きですか×あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか
(複数回答可)

		あなたは現在住んでいるまちが好きですか。						
		とても好きだ	まあまあ好きだ	あまり好きではない	好きではない	どちらでもない	その他	計
あなたが10年後どこに住んでいたいと思いますか (複数回答)	今住んでいるまち	37	70	2	1	8	1	119
	中丹、丹後地域	4	11	1	1	4	0	21
	但馬、丹波地域	9	25	0	1	2	0	37
	関西地域	70	307	53	15	68	1	514
	首都圏	10	70	27	12	19	0	138
	その他	3	16	3	4	6	0	32
	どこでもよい	1	8	0	0	3	0	12
	分からない	3	9	0	0	1	0	13
	計	137	516	86	34	111	2	886

10年後に「今住んでいるまち」を選択した高校生の回答数107、89.9%が、「住んでいるまちが好きだ」および「まあまあ好きだ」の回答数と重なっている。

また、「京都府北部(中丹・丹後)」と「兵庫県北部(但馬・丹波)」を含めた広い意味での地元での定住指向の回答数156(回答総数の17.6%)は、「今住んでいるまちがとても好きだ」と「まあまあ好きだ」を選択した653の23.8%になる。その一方で、「関西地域」と「首都圏」を選択した高校生の回答数457、回答総数の51.5%は、「今住んでいるまちがとても好きだ」と「まあまあ好きだ」と答えているにもかかわらず大都市を志向していることを理解しておく必要がある。いずれにしろ、高校卒業後に地元を離れている若者に対して、地域情報の見える化や、地元との結びつきを意識させる仕組みを機能させることが必要ではないか。

11. あなたは今卒業後の進路に何をしたいと思いますか（複数回答可）×あなたは10年後何をしていると思いますか（複数回答可）

		あなたは今卒業後の進路に何をしたいと思いますか（複数回答可）										
		就職する	家業を継ぐ	大学への進学	短期大学への進学	専門学校への進学	起業したい	フリーター	まだ分からない	何もしたくない	その他	計
（複数回答可） あなたは10年後何をしていると思いますか	会社員	40	2	163	6	20	1	0	3	0	0	235
	家業を継いでいる	3	3	6	0	0	1	0	0	0	0	13
	公務員	22	1	124	7	8	1	0	1	0	1	165
	教師	1	1	56	5	0	1	0	1	0	0	65
	農業や水産業	2	1	7	1	0	0	0	0	0	0	11
	自由業（弁護士、IT関係、芸術関係など）	17	1	60	7	41	2	0	2	0	1	131
	フリーター	2	0	4	1	2	0	0	0	0	0	9
	イメージがない	47	2	120	17	52	2	1	16	1	2	260
	考えていない	15	1	28	3	17	1	1	11	2	0	79
	その他	1	0	27	6	13	2	0	2	0	1	52
	計	150	12	595	53	153	11	2	36	3	5	1020

大学進学希望という回答総数595に対しては、「会社員163（27.3%）」について「公務員124（20.8%）」と、ついで「自由業60（10.0%）」と「教師56（9.4%）」が多く、また専門学校進学希望者には自由業が41（26.8%）、

会社員20（13.0%）となっている。専門学校進学希望者の将来キャリア像に自由業が多いのは、専門的技能を身につけて、専門職としての裁量的な労働形態を想定していることによるものと思われる。

12. あなたは今卒業後の進路に何をしたいと思いますか（複数回答可）×あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは今卒業後の進路に何をしたいと思いますか（複数回答可）										
		就職 する	家業 を継 ぐ	大学 への 進学	短期 大学 への 進学	専門 学校 への 進学	起業 した い	フリ ータ ー	まだ 分か らない	何も した くない	その 他	計
（複数回答可） あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか	保護者との同居	19	0	10	3	3	0	0	1	0	0	36
	今住んでいるまち	26	1	33	10	10	0	0	2	0	0	82
	どこでも良い	25	3	107	5	33	2	0	9	1	0	185
	京都府北部（中丹・丹後）	7	1	17	5	4	1	0	1	0	0	36
	兵庫県北部（但馬・丹波）	6	1	19	7	5	1	0	1	0	0	40
	大都市やその周辺	37	3	236	18	74	4	0	7	0	3	382
	海外	3	1	23	1	0	2	2	1	0	2	35
	分からない	25	1	77	9	20	0	0	13	3	1	149
	その他	10	0	28	4	10	1	0	1	0	0	54
	計	158	11	550	62	159	11	2	36	4	6	999

就職希望者については、「保護者との同居」と「今住んでいるまち」の回答合計が45、28.4%と回答全体999に対する「保護者との同居」と「今住んでいるまち」の回答合計118の11.8%の倍以上であり、大都市志向より地元志向が強いことが読み取れる。この傾向は、短期大学進学希望者についても13、20.9%と同様な傾向が見られる。

13. あなたは卒業後の進路に何を選びたいと思いますか（複数回答可）×あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは卒業後の進路に何を選びたいと思いますか（複数回答可）										
		就職する	家業を継ぐ	大学への進学	短期大学への進学	専門学校への進学	起業したい	フリーター	まだ分からない	何もしたくない	その他	計
ますか （複数回答可） あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか	今住んでいるまち	40	2	53	13	20	0	0	4	1	0	133
	中丹、丹後地域	3	1	13	2	5	1	1	0	0	0	26
	但馬、丹波地域	9	2	24	6	6	0	1	0	0	0	48
	関西地域	70	3	341	28	98	3	0	21	1	3	568
	首都圏	15	1	99	7	26	1	0	5	0	1	155
	その他	4	0	23	1	3	2	0	2	0	1	36
	どこでもよい	1	0	6	1	3	0	0	0	1	0	12
	分からない	4	1	2	2	4	1	0	3	0	0	17
計	146	10	561	60	165	8	2	35	3	5	995	

全体として大都市志向が強いものの、10年後の社会人としての生活基盤の選択については、就職希望という回答146のうち52、35.6%が「今住んでいるまち」と「中丹・丹後地域」及び「但馬・丹波地域」を選択している。この傾向は大学志望者の16.0%、大学・短大・専門学校志望者の合計での18.0%に比較して明らかに地元志向が強いといえる。

10年後に住んでいたいところとしては、大学進学希望者と専門学校進学希望者ではともに関西地域での居住希望が341（60.7%）、98（59.3%）と圧倒的に多い。その一方で「今住んでいるまち」での居住希望が回答数全体の53（9.4%）、20（12.1%）となっており、高校卒業後の若者の流出を抑制することと、彼らのUターンが困難な状況と対応している。

14. あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。

×あなたは10年後何をしていますか（複数回答可）

		あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。					
		よく話している	時々話している	あまり話していない	まったく話していない	その他	計
（複数回答可） あなたは10年後何をしていますか	会社員	80	120	13	2	0	215
	家業を継いでいる	5	3	0	0	0	8
	公務員	53	85	5	1	0	144
	教師	30	30	2	0	0	62
	農業や水産業	4	4	1	0	0	9
	自由業（弁護士、IT関係、芸術関係など）	44	63	7	0	0	114
	フリーター	0	5	1	0	0	6
	イメージがない	43	133	48	5	0	229
	考えていない	12	40	19	2	0	73
	その他	21	22	3	0	0	46
	計	292	505	99	10	0	906

少数ではあるが、保護者等とのコミュニケーションが多い高校生「よく話している」「時々話している」では、「家業を継いでいる」が8、「農業や水産業」が8のように他の回答には見られない地元志向が見られる。

15. あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。

×あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。					
		よく話している	時々話している	あまり話していない	まったく話していない	その他	計
数 回 答 可 あ な た は 卒 業 後 ど こ に 住 み た い と 思 い ま す か （ 複	保護者との同居	16	13	2	0	0	31
	今住んでいるまち	33	36	5	1	0	75
	どこでも良い	33	100	28	4	0	165
	京都府北部（中丹・丹後）	12	13	2	1	1	29
	兵庫県北部（但馬・丹波）	14	17	1	0	0	32
	大都市やその周辺	124	188	30	1	0	343
	海外	13	13	2	1	0	29
	分からない	28	78	23	1	1	131
	その他	20	24	3	0	0	47
	計	293	482	96	9	2	882

卒業後に住みたいところと保護者とのコミュニケーションの程度との相関はあまり強くない。「よく話している」と「時々話している」の回答総数に対する割合は、地元志向（保護者との同居＋今住んでいるまち＋京都府北部＋兵庫県北部）が19.8%、外部志向（どこでも良い＋大都市やその周辺＋海外）が60.7%であるが、その一方で「あまり話していない」と「まったく話していない」の回答総数105に対する割合は、地元志向11.4%に対して外部志向が62.8%で、コミュニケーションが良いほうが地元志向が強い傾向となっている。

16. あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。
 ×あなたの保護者や親族は、あなたに就職後や大学卒業後の住む場所について、どのような意見を持っていますか（複数回答可）。

		あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。					
		よく話している	時々話している	あまり話していない	まったく話していない	その他	計
（複数回答可） あなたの住む場所について、どのような意見を持っていますか あなたの保護者や親族は、あなたに就職後や大学卒業後	実家に帰ってきて欲しい	22	23	5	0	0	50
	地元のまちに住んで欲しい	20	30	9	2	1	62
	地元から出た方が良い	21	30	5	0	0	56
	大都市に住んだ方が良い	12	13	3	0	0	28
	好きなようにすれば良い	150	231	27	1	1	410
	話したことがない	12	61	21	2	0	96
	分からない	25	67	26	3	0	121
	その他	4	4	0	0	0	8
	計	266	459	96	8	2	831

「よく話している」、「時々話している」と回答した高校生で保護者等の意見が「分からない」と回答した割合は全体の12.6%であるが、「あまり話していない」、「まったく話していない」と回答した高校生の割合は27.8%であり、話し合いの効果が読み取れる。このことから、保護者が高校生とより多く話す機会をもつことが重要ではないかと考えられる。

保護者等の意見では「好きなようにすればよい」という回答数が全回答数 961 に対して 483、50.2%と圧倒的に多い。ただその中で「実家に帰ってきてほしい」と「地元のまちに住んでほしい」という回答数が合計 136、14.1%である一方で、「地元から出たほうがよい」と「大都市に住んだほうがよい」の合計が95、9.8%あり、「好きなようにすればよい」という保護者等の意見との関係についてより深い調査・分析が必要と考えられる。

18. あなたは10年後何をしていますか（複数回答可）×あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは10年後何をしていますか（複数回答可）											
		会社員	家業を継いでいる	公務員	教師	農業や水産業	自由業（弁護士、IT関係、芸術関係など）	フリーター	イメージがない	考えていない	その他	計	
ますか（複数回答可）	あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか	今住んでいるまち	38	1	25	14	4	11	0	30	8	10	141
	中丹、丹後地域	8	1	7	3	1	4	1	3	0	1	29	
	但馬、丹波地域	9	3	8	9	1	7	1	7	2	2	49	
	関西地域	148	4	108	44	5	75	3	149	45	26	607	
	首都圏	47	3	27	15	0	20	1	37	11	9	170	
	その他	11	0	6	2	1	6	0	2	4	5	37	
	どこでもよい	1	0	0	1	0	0	0	7	1	1	11	
	分からない	0	1	0	0	0	1	0	8	2	1	13	
	計	262	13	181	88	12	124	6	243	73	55	1057	

10年後に住んでいたいところとして「関西地域」及び「首都圏」を選択した回答数が合計777であり、「今住んでいるまち」、「中丹・丹後地域」及び、「但馬・丹波地域」の回答数合計219の3.5倍強となっている。

19. あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）×あなたの保護者や親族は、あなたに就職後や大学卒業後の住む場所について、どのような意見を持っていますか（複数回答可）。

		あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）									
		保護者 との同 居	今住ん でいる まち	どこで も良い	京都府 北部 （中 丹・丹 後）	兵庫県 北部 （但 馬・丹 波）	大都市 やその 周辺	海外	分から ない	その他	計
答可）。 あなたの保護者や親族は、あなたに就職後や大学卒業後の住む場所について、どのような意見を持っていますか（複数回答可）。	実家に帰ってきて欲しい	9	11	9	0	3	20	2	2	2	58
	地元のまちに住んで欲しい	5	14	11	3	2	23	3	11	4	76
	地元から出た方が良い	2	1	13	2	3	26	1	5	6	59
	大都市に住んだ方が良い	1	3	1	0	0	19	3	2	2	31
	好きなようにすれば良い	15	31	84	20	16	211	14	58	22	471
	話したことがない	0	14	27	1	4	29	3	22	5	105
	分からない	2	8	27	4	5	41	4	35	5	131
	その他	0	0	2	0	0	2	1	0	4	9
	計	34	82	174	30	33	371	31	135	50	940

卒業後に住みたいところに関する保護者等の意見は、流出容認（「地元から出たほうがよい」＋「大都市に住んだほうがよい」）が回答総数の9.5%に対して、地元定住希望（「実家に帰ってきてほしい」＋「地元のまちに住んでほしい」）が14.2%となっているが、高校生の側では、地元定住志向「今住んでいるまち」＋「京都府北部（中丹・丹後）」＋「兵庫県北部（但馬・丹波）」が19.0%、流出志向が42.7%と大きなギャップがある。

ただ、保護者等の意見が地元定住希望と明確である場合、それを受けた高校生の意識を見ると「保護者との同居」＋「今住んでいるまち」を選択した総数116に対して、「保護者との同居」14と、「今住ん

でいるまち」25の合計は39、33.6%となり、「大都市やその周辺」という回答の合計43に対してそれほど遜色は無い。サンプルが少ないために確定的なことはいえないが、高校卒業後の住む場所について、保護者等の意見は高校生の選択にかなり影響を与える可能性がある。

20. あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）×あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）

		あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか（複数回答可）									
		保護者との同居	今住んでいるまち	どこでも良い	京都府北部(中丹・丹後)	兵庫県北部(但馬・丹波)	大都市やその周辺	海外	分からない	その他	計
可 あなた は 10 年 後 ど こ に 住 ん で い た い と 思 い ま す か (複 数 回 答 可)	今住んでいるまち	17	54	17	9	6	23	6	15	7	154
	中丹、丹後地域	1	4	2	9	2	7	3	4	1	33
	但馬、丹波地域	1	5	9	1	13	11	3	3	2	48
	関西地域	16	32	123	18	17	253	15	83	24	581
	首都圏	2	5	22	5	3	95	7	19	3	161
	その他	1	0	1	0	2	11	4	6	12	37
	どこでもよい	0	1	5	0	0	1	1	3	2	13
	分からない	1	0	6	0	0	2	0	4	1	14
	計	39	101	185	42	43	403	39	137	52	1041

高校卒業後に住みたいところと10年後に住んでいたいところとの相関については、まず高校卒業後の住みたいところとして広義の地元志向（「保護者との同居」＋「今住んでいるまち」＋「京都府北部」＋「兵庫県北部」）を選んだ回答数は225であり、地元以外（「大都市やその周辺」＋「海外」）を選択した回答数は442と地元志向の約2倍であった。その一方で、10年後に住んでいたいところについては、広義の地元志向（「今住んでいるまち」＋「中丹・丹後地域」＋「但馬・丹波地域」）という回答数の合計が235に対して、地域外（「関西地域」＋「首都圏」）の回答数の合計は742と地元志向の3.2倍に増えている。その理由は、卒業後に広義の地元に住みたいと答えた225の回答数が、10年後では235となる一方で、高校卒業後の住みたいところとして大都市圏や海外を選んだ回答数は442だったが、10年後の社会人として定着する段階では大都市周辺（「関西地域」＋「首都圏」）を生活拠点としては選択するという回答数は742と、単純な比較はできないが、明らかに大都市志向が顕著に増加する傾向が読み取れる。10年後の生活拠点としては、地元志向（今住んでいるまち＋京都府北部＋兵庫県北部）が235、22.5%であったが、高校卒業後に住みたいところについての地元志向（保護者との同居＋今住んでいるまち＋京都府北部＋兵庫県北部）が225、21.6%とほぼ同じであった。

最後に、「分からない」という回答数が、高校卒業後では 137であったが、10 年後の住みたいところの選択では14と減少しており、その多くが大都市圏の選択に流れたものと考えられる。

21. あなたの保護者や親族は、あなたに就職後や大学卒業後の住む場所について、どのような意見を持っていますか（複数回答可）。×あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）

		あなたの保護者や親族は、あなたに就職後や大学卒業後の住む場所について、どのような意見を持っていますか（複数回答可）。								
		実家に帰ってきて欲しい	地元のまちに住んで欲しい	地元から出た方が良い	大都市に住んだ方が良い	好きなようにすれば良い	話したことがない	分からない	その他	計
あなたに10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）	今住んでいるまち	14	19	3	5	47	20	16	1	125
	中丹、丹後地域	2	3	1	2	11	0	4	0	23
	但馬、丹波地域	2	5	1	0	19	8	5	0	40
	関西地域	23	35	47	17	281	59	81	6	549
	首都圏	9	6	10	8	85	15	18	1	152
	その他	4	3	2	3	19	2	4	0	37
	どこでもよい	1	0	0	0	7	3	1	0	12
	分からない	0	1	0	1	7	0	4	0	13
	計	55	72	64	36	476	107	133	8	951

10 年後の生活基盤となる場所についても、保護者等の意見の影響は一定認められる。保護者等の意見が地元志向（実家に帰ってきてほしい）＋「地元のまちに住んでほしい」のとなっている場合(回答総数127)、高校生が10年後に住んでいたいところとして広義の地元志向（「今住んでいるまち」＋「中丹・丹後地域」＋「但馬・丹波地域」）を選択した回答数は合計45であり、その一方で大都市圏（「関西地域」＋「首都圏」）の合計回答数は73と、全体の傾向に比較して地元を指向する高校が多くなっている。ただし、地元志向の高校生はもともと少数であり、この結果をどう評価するかは慎重に検討する必要がある。

22. あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）×あなたは、あなたが今住んでいる地域に不足しているものは何だと思いますか。（3つ以内を選んで回答してください）

		あなたは10年後どこに住んでいたいと思いますか（複数回答可）								
		今住んでいるまち	中丹、丹後地域	但馬、丹波地域	関西地域	首都圏	その他	どこでもよい	分からない	計
か。 （3つ以内を選んで回答してください） あなたは、あなたが今住んでいる地域に不足しているものは何だと思いますか。	魅力ある就職先	55	9	17	219	69	10	5	2	386
	育児・教育などの質の良い子育て環境	17	4	9	49	15	4	0	1	99
	便利な公共交通	43	11	18	285	81	14	5	3	460
	若者が力を発揮しやすい社会の雰囲気や環境	29	4	12	121	37	11	1	0	215
	同世代の若者	12	4	4	40	10	2	0	0	72
	地域の活気	21	6	10	103	24	5	7	1	177
	遊ぶ場所	50	6	17	228	61	13	3	5	383
	その他	8	1	1	12	5	5	1	2	35
	分からない	1	0	0	0	0	0	0	1	2
	計	236	45	88	1057	302	64	22	15	1829

今住んでいる地域に不足しているものという設問に対しては、10年後に想定している生活拠点による

相関は見られなかった。基本的に高校生にとって身近な地域の課題は、①通学等で感じている公共交通網の不十分さ、②遊ぶ場所の不足、③魅力ある就職先であり、地域社会の生活環境や地域活動の条件については、まだ十分な認識が形成されていないものと考えられる。

4 アンケート調査結果の総括

- (1) 高校卒業後地元を離れる若者が地元に関心を持ちつづけ、ふるさとに何らかのかかわりを持つための具体的な手法開発が必要である。

(分析結果から)

高校生の地元からの流出傾向は非常に高いが、高等学校卒業時点よりも卒業後10年経過した時点での居住場所として大都市圏を指向する比率が高まることが特に重要である。

○高校卒業後に住みたいところ

*地域内(保護者との同居+今住んでいるまち+京都府北部+兵庫県北部) 21.1%

*地域外(大都市やその周辺+海外) 47.0%

○10年後に住んでいたいところ

*地域内(今住んでいるまち+京都府北部+兵庫県北部) 22.3%

*地域外(関西地域+首都圏+その他) 86.2%

(解説)

この調査では、地域内指向の高校生の将来居住地の選択傾向は大きく変わらないが、社会人としての生活基盤を想定する年代になると、高校卒業後時点の居住選択について「どこでも良い」、「分からない」と回答した高校生が大量に大都会指向の回答をしていることが見て取れる。この調査結果は、都市部に就職した若者が地元へ還流しないとする類似の調査と同じ傾向を示しており、これまでのIJUターンを基本とする移住・定住政策だけでは大量の移住が必要な人口政策としては、根本的な解決が困難である事情は変わらないことを示している。

- (2) 北近畿地域の高校生の地元の地域に対する高い好感度を地域社会の未来につなげるために、都市在住の地元出身者にとって魅力のある地域情報をシームレスに提供する仕組みの構築が望まれる。

(分析結果から)

北近畿地域における高校生の地元に対する好感度は、「とても好きだ」と、「まあまあ好きだ」を合わせると72.8%となるが、その高い好感度と現実の進路の間には強い関係性が見られない。まずクロス分析に「設問9」よれば、「高校卒業後に住みたいところ」については、「保護者との同居」「今住んでいるまち」その合計が94(京都府北部と兵庫県北部を足しあわせても144)であ

るのに対して、「大都市やその周辺」「海外」の合計は 255 (約 1.8 倍) と大きく差がついている。さらに 10 年後に住んでいたい場所となると「設問 10」、北近畿地域(「今住んでいるまち」+「中丹・丹後地域」+「但馬・丹波地域」)の合計が 156 に対して、大都市圏(「関西地域」+「首都圏」)は 457 と約 2.9 倍にその差が広がる。その理由は、(1)でも指摘したように卒業後に住みたいところについては直近の就職・進学共に自分の意志だけでは決められない要素があることと、今回の調査が 2 年生を対象にしていたために、進路自体が未定のケースも多いことが影響して、「どこでも良い」と「分からない」とが多くなっていることに対して、10 年後に住んでみたい場所については、社会人としてのキャリアイメージから回答が出せるために、住んでみたい場所については「どこでも良い」と「分からない」が大きく減少し、その多くが就職先の多い大都市周辺を選択した結果と考えられる。

それを裏付けるデータとしては、「あなたが今住んでいる地域に不足しているものは何だと思いますか」という設問 9 に対して、「便利な公共交通」「遊ぶ場所」の次に「魅力ある就職先」が他の解答を大きく引き離して挙げられており、若者にとって魅力ある就職先の有無が将来住む場所を決める大きな要因であることがわかる。

(解説)

この分析結果から見えてくることは、高校生たちを含む若者にとってもっとも大きな魅力は質の良い就職先の有無である。この魅力ある就職先が若者の将来設計にとって最も重要な要素であることを踏まえて、北近畿地域はどのような方向で地域社会を再構成するべきなのであろうか。

今回の調査という限られた材料からその答えを引き出すことは難しいが、少なくともいくつか検討すべき課題は指摘できる。

- ① 高校生たちが就職にとらわれるのは当然ではあるが、北近畿地域で開発できる就職以外(あるいは大都会での就職以外の就職)の生き方を提供する産業政策づくりや地元の魅力ある企業での実践体験活動が求められる。とりわけこれからの地域社会では AI、ICT の急速な普及が大都市以外の地域資源と結びついてまったく新しい産業形成・企業活動が可能となる。
- ② 今後 20 年間で大都市の高齢化・財政の危機・衰退が非常に進むことが予測されている。その時代に、人口減少や高齢化が先に緩和する地域社会像を明確にして、若者の選択の幅を広げる。
- ③ 都会に住む地元出身者たちが、ふるさとに何らかの形でつながり、そのことが北近畿地域への地元出身者による地域のための活動や実践につながる仕組みを創出する。

(3) 高校生の保護者の意識、地元出身都市在住者の意識を調査分析し、高校生に新たな地元意識を持つような機会を提供する必要がある。

(分析結果から)

単純集計の結果「設問 4」では、高校生の進路の相談相手として保護者等とは、「よく話している」「時々話をしている」を含めると 86.6%の生徒が相談をしているという結果であった。この数字は、類似の調査の結果と基本的に整合するものであり、保護者や親族が高校生の意識形成に非常に大きな役割を担っていることが改めて確認された。しかし、クロス集計結果からは、保護者等のもつ意見が必ずしも高校卒業後の進路や 10 年後の生活のイメージに大きく影響しているとは言いにくい。

具体的には、「卒業後に住みたいところ」という「設問6」に対しては、「よく話している」、「時々話している」と回答した高校生で、広い意味での地元志向（京都府北部及び兵庫県北部までを含む）を示したのは全体の19.8%であるが、「あまり話していない」、「まったく話していない」と回答した高校生でも11.4%であり、その反対に外部指向（「大都市やその周辺」「海外」）についてもその割合は、43.6%対32.3%の程度に留まっている。

（解説）

このように保護者の意見が必ずしも高校生たちの意識に強く反映していない原因はどこにあるのだろうか。それに対するひとつの説明は、保護者等が高校生たちに「好きなようにすればよい」と言っているために、職業観や地域で生きることへの思いやこだわりを直接伝えられていないことが考えられる。直接的には保護者等の「好きなようにすればよい」という物言いは、高校生に対する保護者等の信頼感とその要因になっていると考えられるが、また逆に、自分の子息等にはそう言いながら地域への若者のUJターンを強く望んでいるという矛盾した態度がそうさせている可能性もあるのではないかと。また、保護者等が高校生たちに、地域で誇りを持って生きていくことに対して、伝えるべき明確なメッセージを持っていないことを反映している可能性もある。保護者等の意見が高校生の卒業後の進路に与える影響が大きいことを考慮すると、保護者の意見の背景と本音をより深く解明することが重要と考えられる。

（4） 高校生を対象としたさらなる意識調査の必要性

今回のアンケート調査は、北近畿地域全域の高等学校を対象とする悉皆調査ではないために、いくつかの留意すべき点がある。

- ① 対象となった高等学校が北近畿地域（京都府丹波・丹後、兵庫県丹波・但馬10市4町の高等学校全33校のうち普通科4校、総合学科2校（公立高校5校、私立高校1校）に限られているために、この地域の高校生の全体の意識を捉えたものではない。
- ② 上記2校のうち総合学科では、職業系専門学科の教育課程を有するが、全体としては普通科の割合が多く、特に商業系・農林水産業系、及び工学・技術系の高校生が割合として少ないため調査結果が卒業後に進学や就職のために地域から出て行く若者（高校生）の意識に偏りがちであることに注意が必要である。

（5） 在校生だけでなく、都市在住の卒業生と若者を送り出す保護者等を含む、総合的な意識調査の必要性

今回の調査は、基本的に進学や就職のために地域から出て行く若者（高校生）を対象とするものである。しかし、若者が去って衰退が加速するだけであれば、このような調査は何の意味もない。この調査は、若者が地域社会から出て行くところを捉えた予備調査であり、彼らを含めた都会の若者たちが地域社会にさまざまな形で戻り、また入ってくるために、地域社会がどのように地域を磨いていくべきなのか、住民が誇りと自信を持って若者を呼び込むことができるために何が必要かを明らかにすることを通じて、実際に地域社会が再生する契機をつくる小さな一歩を踏み出すことが求められている。

5 北近畿地域における高校生の郷土意識に関するアンケート調査票

参考資料

北近畿地域連携会議

高校生の地域に対する意識調査について

北近畿地域連携会議 代表幹事
井口 和起（福知山公立大学学長）

高校生の皆さんへ(お願い)

北近畿地域連携会議は、北近畿(京都府北部地域及び兵庫県北部地域)を対象として、本年6月に3つの大学と民間の諸機関等約50団体によって創設された、民間のシンクタンクを目指す会議です。この会議では、研究テーマのひとつとして、「若者の地域社会への移住・定住」をテーマに取り上げ、特に今年度は京都府北部地域及び兵庫県北部地域の高校生を対象にした「高校生の地域に対する意識調査」を計画しました。

このアンケートでは、個人の氏名や住所は書く必要がありませんので、質問には、高校生の皆さんが日ごろ地域について感じていることや考えていることを、そのまま書いてください。

このアンケートについての説明

1. アンケート調査の目的

北近畿地域（京都府北部と兵庫県北部）の高校生を対象に、地域に対する意識と今後の進路希望との関係を調査して分析することにより、若い人々が北近畿地域に移住・定住する条件をさぐります。

2. アンケート調査の実施方法

京都府北部の高等学校(3校)、兵庫県北部の高等学校(3校)の2年生を対象

に、アンケートを配布し回収します。

3. 個人情報の取り扱い

このアンケート調査では、個人が特定される情報は取り扱いません。また調査の結果は調査報告書、行政等に対する提言、学術論文等で公表されますが、個別の調査票を公表の対象とすることはありません。

4. 目的外使用について

皆さんから回収したアンケートの回答は、調査の目的を達成するためだけに使い、それ以外の目的に使用することはありません。

5. アンケート結果のお知らせ方法

今年度の調査結果は、調査にご協力いただいた高等学校と調整したうえで、平成30年4月中にマスコミを通じて発表する予定です。また、調査にご協力いただいた高等学校には、別に高等学校よりご指示をいただいた必要部数を配布させていただきます。

6. 回答を記入するときに注意していただきたいこと。

- ① 質問2以後の回答は質問項目についている、イ、ロ、ハなどの記号のうち、該当するものを○で囲んでください。
- ② 質問2の自営業とは、個人で小規模な商店やオフィスを営んでいることをさします。

高校生の地域に対する意識調査票

質問1 あなたの性別をカッコ内に記入してください。()

以下の回答は、回答の項目（イ、ロ、ハなど）を○で囲んで下さい。

質問2 あなたは現在住んでいるまちが好きですか。

- イ とても好きだ ロ まあまあ好きだ ハ あまり好きではない
ニ 好きではない ホ どちらでもない
ヘ その他()

質問3 今、あなたは卒業後の進路に何をしたいと思いますか(複数回答可)

- イ 就職する ロ 家業を継ぐ ハ 大学への進学
ニ 短期大学への進学 ホ 専門学校への進学 ヘ 起業したい
ト フリーター チ まだ分からない リ 何もしたくない
又 その他()

質問4 あなたは、あなたの保護者や親族（祖父母など）と今後の進路について話したことがありますか。

- イ よく話している ロ 時々話している ハ あまり話していない
ニ まったく話していない ホ その他()

質問5 あなたは10年後何をしていますか(複数回答可)

- イ 会社員 ロ 家業を継いでいる ハ 公務員 ニ 教師
ホ 農業や水産業 ヘ 自由業（弁護士、IT関係、芸術関係など）
ト フリーター チ イメージがない リ 考えていない
又 その他()

質問6 あなたは卒業後どこに住みたいと思いますか(複数回答可)

- イ 保護者との同居 ロ 今住んでいるまち ハ どこでも良い
ニ 京都府北部（中丹・丹後） ホ 兵庫県北部(但馬・丹波)
ヘ 大都市やその周辺 ト 海外 チ 分からない
リ その他()

謝 辞

本アンケート調査は、アンケート案の調整から実施のすべての段階において、北近畿地域の6校の高等学校（注）の皆様にご協力と助言をいただいた結果取りまとめることができたことを、ここに感謝の意をこめて改めて御礼申し上げます。

また、京都府総合教育センター北部研修所教師力向上アドバイザー坂根文伸様には、本アンケートの企画やチェック及び北近畿地域の高等学校へのご紹介等において、学校教育関係者との連携が乏しい本会議のために適切な助言とご支援をいただき、円滑な調査の実施に至ったことを記して感謝の意を表します。

（注）調査協力をいただいた高等学校（アイウエオ順）

（京都府内）京都府立久美浜高等学校
京都府立福知山高等学校
福知山淑徳学園高等学校

（兵庫県内）兵庫県立出石高等学校
兵庫県立豊岡高等学校
兵庫県立和田山高等学校

北近畿地域連携会議第 2 期研究テーマ公募エントリー結果集計表

	申請者	共同研究者	テーマ	研究課題	財源(想定)	備考
1	丹後海陸交通株式会社 安達 幸三 氏	① WILLER TRAINS(株) ② 京都交通株式会社 ③ 全但バス株式会社	交通・流通	・地域公共交通を維持・継続するために	連携会議予算 会員募金 行政委託・補助	新規 経費(調査旅費等、図書等) 学生参加を想定
2	与謝野町商工会 岸部 敬 氏	記載なし	教育・人材育成 まちづくり	・高齢者の社会参画への場作り ・社会参加を促す志向	連携会議予算 会員募金	新規 経費(記載なし) ヒアリング後再提出考慮中
3	北近畿地域経済新聞社(成美学園理事長) 高崎 忍 氏	① 京都共栄学園 ② 福知山淑徳学園 ③ 四方源太郎(府議)	教育・人材育成	・京都府北部の私学(6 高校)の生き残り策について	連携会議予算 会員募金 行政委託 民間委託など	新規 経費(調査委託)
4	舞鶴工業高等専門学校 学校長 内海 康雄 氏	① 日進製作所 ② 舞鶴市商工会議所 ③ 舞鶴市	教育・人材育成 産業振興 まちづくり	・北近畿における SDGs を踏まえたコンパクトシティ構築への提言	連携会議予算 その他(一部 助成金申請中)	新規 経費(調査旅費、図書等) 産学官の連携
5	(一社)京都府北部地域連携都市圏振興社	① 神谷達夫教授 ② 佐藤充助教	観光・交流	北近畿を面的に周遊する観光への挑戦	連携会議予算	継続②—2 経費(調査委託)

* 本資料は、近畿地域連携会議 第 2 期研究テーマ公募エントリーについてまとめたものです。

「北近畿地域連携会議」第2期研究テーマ公募にかかる選考委員会 結果報告

1. 日 時：平成31年4月9日（火）午後1時00分～2時40分
2. 会 場：福知山公立大学2号館1階「Kita-re」Co-Lab.スペース
3. 出席者（敬称略。あいうえお順）

荻野 祐一（丹波新聞社）、
白石 和範（西日本旅客鉄道株式会社福知山支社）、
富野 暉一郎（福知山公立大学）、布川 貴英（日東精工株式会社）
宮垣 健生（但馬信用金庫）

（事務局）

佐野 光平、外賀 豊樹

1. 北近畿地域連携会議 研究テーマ公募にかかる選考委員会設置要綱について
研究テーマ公募にかかる選考委員会設置要綱について、事務局より説明を行った。

2. 委員長の選出

委員の互選により白石委員が委員長に選出された。

3. 議事内容

（1）報告

①事務局より研究テーマ公募の経緯および、5件のエントリーについて報告を行った。

5件のエントリーは、別紙集計表のとおり

②事務局ヒアリングの報告

事務局より各エントリーの提出者に対するヒアリングの内容について説明を行った。

別紙事務局ヒアリングの内容の通り

（2）選考

①選考基準及び評価方法について事務局より説明を行った。

②辞退の2件、及びヒアリングが未実施の1件を除く2件について、選考委員が各エントリーに対する評価（数値評価）を行い、評価点を集計した。

選考委員会における評価点の集計結果は別紙評価点集計表の通り

③選考順位決定のための協議

主要な論点は下記のとおり

○エントリー1について

- ・ 第1期の研究会①と②-2流れを汲んだ、発展的な研究になると考えられる。
- ・ 地元の4事業者が中心となり実践的な研究会を行うイメージができる。
- ・ 調査研究の財源として、事業者による拠出を前提とすることは、第2期の研究会の方向性に沿うものであり連携可能性が高い。
- ・ 第1期の研究会②-2研究会の今後の展開や、エントリー⑤との連携可能性が高い。
- ・ 第1期の研究会②-2と今回のエントリー⑤との連携を媒介する可能性がある。
- ・ エントリー①の研究テーマは若者の定着などへの連携も想定している。
- ・ 面的観光やデータ解析と地域公共交通による実際の事業者や生活全体をつなぐチャレンジングなテーマになるのではないか。

○エントリー5について

- ・ 第1期の研究会②-2の継続発展を目的とするものである。
- ・ エントリー⑤の観光ビッグデータ解析を参考にしながら、エントリー①の研究会で事業者が実践的な研究を行う期待ができる。
- ・ エントリー⑤とエントリー①の連携可能性は高い。
- ・ エントリー⑤の面的観光の解析や誘導については、京都側や但馬地域だけでなく是非、丹波地域を含めて欲しい。

④選考結果

○選考順位

1位：エントリー①「地域公共交通を維持・継続するために」

2位：エントリー⑤「北近畿を面的に周遊する観光への挑戦」

保留：エントリー④「北近畿におけるSDGsを踏まえたコンパクトシティ構築への提言」(今後のヒアリング結果による)

○幹事会への推薦について

以上の協議を踏まえ、エントリー①とエントリー⑤の2件について選定し、幹事会へ推薦することが全会一致で承認された。

以上

資料 3

別紙

〔様式 I-3〕

「関係人口創出・拡大事業」モデル事業
企画提案書（全体概要）

提出日：平成 31 年 3 月 6 日

提案者	提案団体名	京都府福知山市		
	提案団体代表者氏名	福知山市長 大橋 一夫		
	共同提案団体名	兵庫県丹波市、兵庫県朝来市		
	提案団体担当者名 (所属・役職・氏名)	福知山市市長公室経営戦略課 主査 横田 勇人	電話番号	0 7 7 3 - 2 4 - 7 0 3 0
		Eメール	keiei@city.fukucyhiyama.lg.jp	
提案する事業の概要	事業パターン	(3) 都市住民等の地域への関心を醸成する取組		
	事業名	(仮称) ふるさと・・もう一度 (都市在住地縁者の心につながる再生を)		
	事業実施予定地域	京都府福知山市、兵庫県丹波市、兵庫県朝来市		
	提案内容 事業概要・ イメージ図	<p>高校卒業後に大都市周辺に就職・進学した地縁のある都市の若者を中心的なターゲットとして、都市に移住した若者たちが都市住民の視点でふるさとを再発見し、ふるさとのための活動を始めることを通じて、都市部に移住した若者がアクティブな関係人口として地域社会に関わることで、地域の元気を創出し、若者がUターンをしたくなる地域づくりにつなげる基盤を造成する様々なプログラムを実施する。</p> <p>事業の実施にあたっては、福知山市・丹波市・朝来市の連携の下に、大学のゼミと地域連携センター（福知山公立大学北近畿地域連携センター）・地元のシンクタンク（北近畿地域連携会議）及び観光協会等が協働し以下の事業を展開する。</p> <p>① ふるさと再発見ツアー、中高生たちとの交流会、移住体験ツアー、ワークショップ（ふるさとを生きる）（以上仮称）の実施 ⇒京阪神都市部在住の地元出身者を主な対象とした主体的にふるさとに関わる基盤を造成する事業の展開</p> <p>② 「ふるさと・・もう一度シンポジウム」の開催 ⇒北近畿地域の情報を広く一般まで浸透させるためのシンポジウムの開催</p> <p>③ 高校生の保護者等と都会に住む若者への郷土意識調査。</p> <p>④ ふるさと会員制度（既存事業）への会員登録推進</p>		
	事業費	8,959 千円		

(注) 1 枚に収めること。

1 事業の目的・効果

<背景>

関係人口の創出・拡大を図るための具体的な手があるのは、高校卒業後に大量に地元を離れて大都市に移住する地元出身者である。北近畿地域の高校生たちの7割以上が自分の住んでいるまちについて好感度を持っているにもかかわらず、卒業10年後には、その8割以上が大都市及びその周辺に住むことを望んでいるという調査結果がある。（注1）また同調査では、質のよい雇用がないという不満が4割を超しており、全国的な傾向と同じ意識が見られる。このことは、高校生が日常的に接しているキャリアに関連する情報が大都市に集中し、地域社会については前向きな情報が非常に少なく、地域に生きている人々の生活実態や生きがいに触れる機会も少ないために、若者にとって地域社会で生きるという選択肢には実感が生まれにくく、また卒業後にふるさとに関わる機会や情報がほとんどなくなってしまうことで、生活からふるさとが遠くなってしまいう結果と捉えることもできる。

（注1）北近畿地域連携会議では、平成29年度に「北近畿地域における高校生の郷土意識に関するアンケート調査」を北近畿地域の高等学校6校の協力を得て実施し現在報告書の作成中であるが、全体の単純集計結果を一部引用した。（平成31年3月中旬に発表予定）ただしこの調査は悉皆調査ではないため、大まかな傾向として理解しておく必要がある。

<目的>

本市は、大都市に就職や進学で移住した若者を主要なターゲットとして、広い世界を経験した多数の地元出身の若者たちに、都会で社会生活をしているという新しい目で地元の地域社会を知り経験するさまざまなプログラムを実施し、高校生時代には見えなかった地元社会の魅力や不足している資源などを体験し考察し行動する機会を与えることを通じて、関係人口の創出・拡大に向けた機運を醸成する。またその基盤の上に、自分を育ててくれたふるさとに何らかの貢献をする機会を提供して、都会では得られないものが実現できる場としてのふるさとがあらたな活動の場としての選択肢になることを目指す。

<効果>

事業の効果としては、北近畿唯一の4年制大学である福知山公立大学に加えて京都市の複数の大学のゼミが関わることにより、大都市における地元出身の若者が関係人口として可視化できるだけでなく、一般の若者を巻き込んだ広い基盤を持つ関係人口層を形成できる。また本事業で地元の関係者と連携して実施するさまざまなプログラムによって、中期的には若者が少ないことで生じる住民のさまざまなマイナス思考を和らげ、長期的にも地域の活動を活性化することが期待される。

<「関係人口」に関するこれまでの取り組み>

本市におけるこれまでの「関係人口」に関する取り組みとしては、**本事業の連携団体であるシンクタンク「北近畿地域連携会議」**において、平成29年度に京都府北部と兵庫県北部の6高等学校の高校生の郷土意識に関するアンケート調査を実施したことが挙げられる。先述したとおり、彼らが自分の住んでいるまちについて好感度を持っているにもかかわらず、10年後に住むところとしては圧倒的に大都会周辺を選択

コメントの追加 [f1]: 本市に関することではないため、割愛しました。

コメントの追加 [f2]: 本市に関することではないため、割愛しました。

傾向にあるという結果を得ている。彼らが持っている郷土に対する高い好感度をいかに地域への貢献やＩＴターンに結びつけるかが今後の研究テーマとして挙げられており、彼らを行動的な関係人口にしていく地域社会の努力が求められている。また同会議において、観光入込客の動向に関するビッグデータの解析を行っており、その分析に基づいた新たな観光ルートの開発によって都市住民に対する地域の魅力をアピールし、関係人口・交流人口の拡大することを課題としている。

その他、「いがいと！福知山」をキャッチフレーズとして、本市の地域資源・文化・食等といったさまざまな魅力についてインスタグラムを活用して全国に発信し、本市に対する全国的な関心を高める努力をしているところである。また、朝来・丹波両市についても、竹田城跡や丹波黒大豆などをはじめとする観光資源のさらなる活用について進めているところである。

<モデル事業終了後の展開>

モデル事業終了後の継続的な取り組みについては、本事業の成果を評価した上で、福知山市・丹波市・朝来市による協議体で人口減少対策も含めた関係人口創出・拡大等に係る取組を検討していく。また、必要に応じオブザーバーとして福知山公立大学も参画する。

2 達成目標

- ① 大学ゼミの参加数 京都市内2大学及び福知山公立大学のゼミ生 40人
- ② 京都市内における「北近畿を熱く語るふるさとシンポジウム」参加者 200人
- ③ ふるさと再発見ツアー（2回）100人（地元出身者以外を含む）
- ④ 中高生たちとの交流会（3回）計90人（大学生10人＋中学生10人＋高校生10人）×3回
- ⑤ 移住体験ツアー 計30人
- ⑥ ワークショップ「ふるさとを生きる（フィッシュボール形式）」（2回）
参加者合計120人（若者60人、地元住民60人）
- ⑦ 地元高等学校卒業生で都会へ移住した若者と、若者を送り出した側の保護者等を対象に、郷土意識やふるさとへの想いと現実とのギャップに関するアンケート調査
サンプル数の目標 移住者500人、地元側500人
- ⑧ 観光旅行者の動態と地域に対する関心を分析するための調査サンプル数 400人
- ⑨ ふるさと会員等情報提供を希望される方（既存事業）の登録数 400人

3 事業の具体的な内容等

（1）事業の詳細

①③ふるさと再発見ツアー

*本事業に参加する3大学のゼミにおいて、関係案内人の情報提供や指導に各自自治体に関する情報収集と分析及び実地調査を行い、ふるさと再発見ツアーで提供する特色のある地域資源や地場産業及び地域生活を選定する。

*ツアー用の資料を作成する。

*地元高等学校と協力して地元出身者のリストを作成し、チラシの配布、マスメディアによる報道、SNSの活用を通じて京阪神在住の地元出身者の参加を募集する。

- * ツアーは1泊2日とし、2回に分けて実施する。現地への往復は鉄道を使い、それ以後はバスをチャーターする。
- * 現地における案内と説明は関係人とゼミの学生が分担して行う。
- * 初日の夜は地元の住民との懇談会を行う。
- * ツアー終了時にレポート提出を求め、さらに後日アンケート様式でツアーの評価をしてもらう。(SNSで対応)

②北近畿を熱く語るふるさとシンポジウム(京都版)

- * 本事業は現地で実施する様々な事業の成果を踏まえて、広く京阪神在住の地元出身者及び都市に在住する若者を対象に、北近畿地域への関心を高め、現地に行きたいという思いを盛り上げるために開催する。
- * シンポジウムは著名人(タレント性を持つ)に基調講演を依頼し、シンポジウムでは、本事業で実施するプログラムの成果報告を兼ねて、各プログラムの参加者代表4名が参加するパネルディスカッションを行う。
- * パネルディスカッションの発言者には、基調講演をした著名人によるコメントを出すなど議論を膨らませる。

④中高生たちとの交流会

- * 福知山公立大学、京都市内の2大学のゼミ生(地元出身者等)、福知山市・丹波市・朝来市の参加を希望する中高生によるワークショップを行う。
- * ワークショップのテーマは事前に地元の若者から提案してもらい、そのテーマについて大学のゼミで学習をしたうえでワークショップを行う。
- * ゼミ生は1泊2日で参加し、ワークショップ前に地元の現地視察及び協力隊員からのレクチャーを受け、現地の事情について理解を深める。
- * ワークショップ終了後、地元の企業経営者や農家、移住者などこの地域で働き住むことについて懇談会を行う。
- * ゼミの成果は、地元の発表会において公表する。

⑤移住体験ツアー

- * 人手を求めている地元の農家・企業等を対象に、2週間程度の労働体験と地域の学習を行う。
- * 移住体験ツアー参加者は、地元出身者だけでなく、ハローワーク等も活用して広く参加を呼びかける。(マッチングはコーディネーターの責任において行う)
- * 移住体験ツアー参加者には、関係案内人による事前の研修と終了後の報告書の提出を求める。
- * 実施時期については主として大学の夏休み期間中(8月、9月)を想定するが、事業進捗によっては、規模を若干縮小して10月から11月に実施することも考慮する。

⑥ワークショップ「ふるさとを生きる」

- * 地元でレベルの高い活動を行っている地場産業の経営者、農業者及び移住者や地域貢献を行っている活動家を招請し、多数の傍聴者とともに課題を考え解決策を共有するフィッシュボール形式のワークショップを開催して、都市と地元の住民の間で人間らしく生きることについて、都市と地方の連携協力が欠かせないという認識を共有する機会とする。
- * フィッシュボールのコアメンバーは地元で活躍している事業者や活動家とし、ファシリテーターの司会進行の下に会場に参加している若者や住民に随時話題を振って全員の参加を促す。
- * 都市側からの参加者としては、地元出身の学生・若者とし、高等学校の保護者会等の協力を得て参加者を募集する。
- * このワークショップについては映像記録をとり、内容が一定の水準であれば映像記録として編集し、地元の中学高等学校等の副教材や地域活動の場での研修資料として活用する。

⑦京阪神地域に住む地元高校卒業生と、地元高等学校の保護者会などの地域の生活者の郷土意識に

関する意識調査

- *地元の高等学校の校友会等の協力を得て、会報等を通じて都市在住の卒業生へのアンケート2,000部を配布し、郵送で回収する。保護者等の地元在住者については校友会及び高等学校生徒の保護者にアンケート用紙を1,500部配布し、郵送で回収する。
- *アンケート案は自治体・高等学校及び北近畿地域連携会議でとりまとめを行う。また、集計及び解析は北近畿地域連携会議が行い、提言の報告書を取りまとめる。

⑧観光旅行者の動態と地域に対する関心を分析するための調査

- *提案者間の協議により、観光旅行者の入り込みの拠点（各自治体の道の駅、福知山城、竹田城跡等）で聞き取りアンケートを実施する。（サンプル数500人）
- *聞き取り内容は、出発地、行程、国的地、選定した理由、地元の観光資源の認知度、旅行の感想、購入品、旅行の感想、リピートの要件などとする。
- *観光客の観光資源の認知度から今後のPR戦略の参考データを得ると共に、観光客の指向に沿ったリピート戦略の参考データを収集する。

⑨ふるさと会員等情報提供を希望される方（既存事業）の登録数

- *特に学生と若者を会員に取り込むことを各プロジェクトを通じて積極的に推進する。

(2) 審査のポイントに対する適合性

ア 公募する事業の内容に対する適切性・有効性・独自性

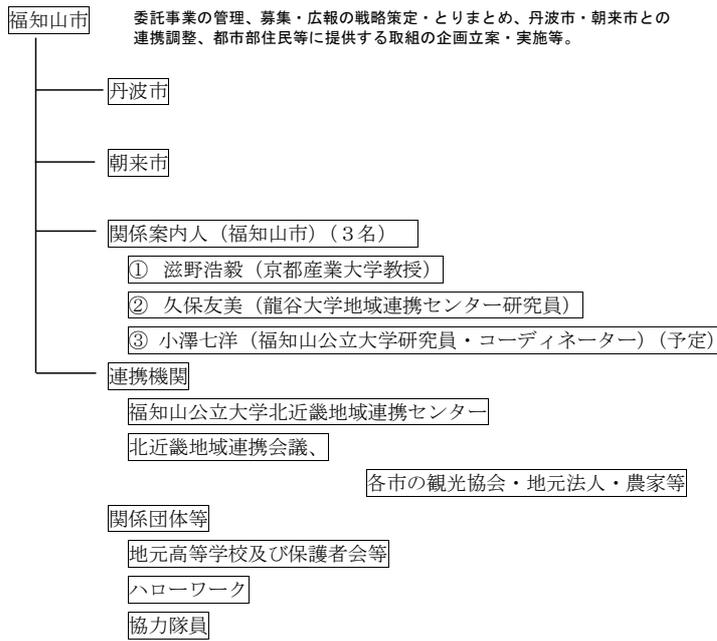
【適切性】

本提案は、大都市地域（京阪神、特に京都市）に在住する地元出身の若者（学生及び社会人）を主たるターゲットとしている。その理由は、現在住んでいるまちに対する高校生の好感度は非常に高いにも関わらず、10年後に住みたい地域としては関西圏の大都市周辺が圧倒的に高いというギャップがあるという調査結果から、高校卒業後に地元を離れた若者たちは、都市の経験は蓄積していくが、その一方で都市生活の経験を踏まえた視点で地元を見つめなおし地元を再発見するための本格的なプログラムは未成熟といえる。今回のプロジェクトは、大学等の専門機関が関わった本格的なふるさと再発見プログラム（ふるさと・もう一度）による関係人口創出を目指すものであり、3大学のゼミをはじめ、関係機関が連携するパターン③の主旨に適切に即したものである。

【有効性】

本事業では、まず関係人口創出・拡大のために地元自治体や民間機関等が関わるだけでなく、地元の福知山公立大学と京都市内の2大学の計3大学のゼミが連携協力することにより、学生が都市と地方の若者同士をつなぎ、共に地域社会を多角的に捉え、都市の側の若者の視点から地元の地域社会を捉えなおし、再発見し、そこで生きる意味を地元の人々から学びなおすことが中核となっている。したがって、単に地元を訪問して体験するのではなく、大学におけるゼミ等の人材育成プログラムや地域人材育成プログラムの実践的手法を都市在住の若者たちや中高生たちとの活動に応用するものであり、地元地域社会の実情に即したアクションを引き出す実効性の高い事業となっている。

1. 実施体制



2019 年度北近畿地域連携会議 事業計画(案)

北近畿地域連携会議第 2 期運営方針に基づき以下の事業を実施する。

1. 北近畿地域連携会議の運営

- (1) 北近畿地域連携会議総会の開催
- (2) 幹事会の開催 (年 4 回)
- (3) 研究会の開催 (3 研究会 x3 回)
- (4) コーディネーターの配置 (北近畿地域連携センター)
- (5) 事務局の運営 (北近畿地域連携センター)

2. 研究体制の整備

(1) 調査研究の推進

① 研究テーマの選定と研究組織の再編

- ・ 研究会は、第 2 期の調査研究を担うために総会において承認、選定された 2 研究会 (うち 1 研究会は 2 分科会) を設置する。また各研究会には研究代表を置くとともに、担当幹事 2 名を配置する。
- ・ 若者の郷土意識に関するアンケート調査に引き続き、都市在住の地元出身者及び高校生の保護者等の意識を分析するアンケート調査を行う。
- ・ 福知山公立大学における地域研究プロジェクトと連携し、教員の研究会への参加を促進する。また、会員大学の研究者等の研究会への参加を呼びかける。

② 外部の組織・団体等との連携による研究資源の多様化の推進。

- ・ 研究テーマに関連する機関・団体等に対して研究会への参加・連携・協力の働きかけを進め、北近畿地域連携会議のシンクタンク活動を通じた北近畿地域の調査研究資源の連携と交流を推進する。
- ・ 研究活動の強化と教育への貢献を推進するために、インターンシップをはじめとする、調査研究の企画や実施に学生が参加する機会を設けるなど、連携関係の強化に向けて、外部の組織、団体等との連携関係の強化に向けて、必要に応じて会員大学間で協議を行う。

(2) 会議の持続的な活動基盤の整備

① 外部資源の活用の推進

- ・ 必要に応じて研究会に外部の専門家を招聘し報告会等を開催する。
- ・ 国等の調査研究プロジェクト支援事業を北近畿地域の自治体等との連携により積極的に導入するほか、外部の機関等との連携事業を可能な範囲で推進する。

- ・ 研究機能及び事務局機能を強化するために、外部人材の派遣受け入れの具体化を図ると共に、北近畿地域連携センターの研究員制度を活用して会員企業等からの研究員の受け入れを推進する。
 - ・ 持続可能な組織への展開を図るために、責任体制・透明性・自律性を担保するための法人化のあり方について検討を始める。
- ② 会員が享受できる会員サービス及び会員としての権利の明確化
- ・ 会員アンケートを実施し、北近畿地域連携会議（以下、「本会議」という。）に期待し求めるものをデータとして把握した上で具体的な施策を取りまとめ順次実施する。
 - ・ 会員の声を踏まえて会員の権利と享受できる会員サービスを明確化し、魅力あるシンクタンク事業への改革を進める。
 - ・ 会員間の交流事業を企画・実施する。
- ③ 財政基盤の拡充
- ・ 会費制度について会員の共通理解を形成し、具体化に向けた合意形成を進める。
 - ・ 会員による研究プロジェクトへの拠出金制度を創設し、主体的な調査研究活動を推進すると共に、財政基盤の拡充による会議の持続性可能性を強化する。
 - ・ 企業を含むふるさと納税制度の活用の可能性について検討する。
- (3) 情報共有及び広報体制の整備
- ・ 新しいパンフレットを作成し、広く本会議に対する認識を高める。
 - ・ ホームページにおいて、定期的に会議の活動に関する情報を提供すると共に、調査研究活動に関連する情報を適宜提供する。
ホームページに定期的に本会議の動き、各研究会の開催案内・研究活動の進捗状況、研究会の議事録等を掲載し、情報を提供する。
 - ・ 本会議の略称・英字表記・ロゴマークを定め、ホームページ、広報等の文書など、あらゆる媒体を活用して、本会議のイメージを浸透させる。

北近畿地域連携会議の主要事業のスケジュール(案)

実施時期	事業名	摘要
2019年5月28日	・北近畿地域連携会議会員総会	
6月	・会員アンケート案の決定 ・第1回研究会② ・高校生アンケート案の決定	幹事会（メール審議） 研究会② 研究会②
7月	・3市高校生の郷土意識調査アンケート実施 ・会員アンケート配布・回収	研究会② 事務局
7月-8月初旬	・第1回研究会	研究会①-1、①-2
8月	・会員アンケート集計及び分析	事務局
9月	・会費制度の試案の審議、決定 ・会費制度試案の会員への配布	第2回幹事会 事務局
10月	・第2回研究会 ・各研究会における会費制度の意見集約	研究会①-1、①-2、②
2020年1月	・第3回研究会	研究会①-1、①-2. ②
2月	・会費制度案の幹事会決定 ・会則改正案の幹事会決定	第3回幹事会
2020年5月	・会費制度の提案	2020年度会員総会

第 2 期の研究会の編成方針（案）

1. 第 2 期における研究会の構成

研究会は分科会を含めて 3 研究会体制とする。また別途連携研究グループを募集する。

(1) 研究会 1 北近畿地域における新たな交流・交通システムの導入による経済的・社会的影響に関する研究会（地域交流・交通システム研究会と略す）。（2 分科会）

① 第 1 分科会 ビッグデータを活用した周遊型観光圏の研究
（研究会①—1、「周遊型観光圏研究会」と略す）

② 第 2 分科会 北近畿地域における公共交通システムの新たな展開に関する研究
（研究会①—2、「公共交通システムの展開研究会」と略す）

(2) 研究会 2 北近畿地域における地縁型関係人口に関する意識の分析研究会 （研究会②、「地縁型関係人口研究会」と略す）

都市在住の北近畿地域(福知山市、丹波市、朝来市)出身の若者の北近畿地域に関する意識調査及び北近畿地域の高校生の保護者を対象とする地元住民意識調査に関する研究会。

(3) 連携研究について

北近畿地域における SDGs を踏まえたコンパクトシティ構築への提言策定にかかる舞鶴工業高等専門学校との連携研究に関心のある会員を募り、連携研究への協力を行う。

2. 研究会の活動の推進体制について

各研究会には会員から研究代表者を選出して、各研究会に配置される担当幹事(2 名)及び事務局(事務局長、コーディネーター)とともに研究活動を推進する。

なお、連携研究には担当幹事は置かず事務局対応とする。

3. 会員の配置方法

幹事会で承認された研究会と連携研究の調査研究趣旨の説明に基づき、会員の所属希望を第 1 希望から第 2 希望まで募り、事務局で一次調整を行う。1 次調整でアンバランスが大きい場合には、事務局が個別に意向を打診して 2 次調整を行い、所属研究会を決定する。

4. 研究会の編成方針に至る経緯について

第 1 期における研究会の最終取りまとめにおける第 2 期の研究に関する要望事項等、及び第 2 期の研究テーマに関する公募の選考委員会における決定と選考委員会の検討内容等を踏まえて幹事会において検討を行い、事務局が本編成案を取りまとめた。

(1) 第 1 期の各研究会における第 2 期に向けた要望

・「高齢者の運転免許証返納による社会的影響を改善するための、地域社会の新たなシステム構築と、その持続可能性にかかる社会経済モデル」研究会(第 1 期研究会①)

第 1 期後半の 2018 年度の研究テーマである「公共交通システムをタクシー等のオンデマンド型を取り入れた公共交通システムに変革する課題」は、高齢社会における重要な社会的インフラに関する研究であるため、本会議のメンバーを含む新たな公共交通システムの関係機関・関係事業者等を巻き込んだ現実性のある調査研究として取り組みたい。

特に、タクシーを公共交通システムに導入した場合の社会的便益と財政とのバランスについて、事例研究を進めたいという意見が強く出されている。

- ・「若者の北近畿地域への定着に向けた新たなアプローチ」研究会(第1期研究会②-1)
 高校生の郷土意識調査に引き続いて、保護者の意識調査に取り組むための協議を行った。その結果、保護者の意識調査は2019年度以降に研究会を再設定して進める方向で意見集約がされた。
- ・「北近畿を面的に周遊する観光への挑戦」研究会(第1期研究会②-2)
 研究活動の今後の展開について、2つの議論があった。ひとつは、これまでの研究の方向を継続して展開し、データ解析によって見える化された地域社会の新たな方向性について、今後のビッグデータの分析結果を踏まえて面的な観光の展開に向けた課題を明らかにし、地域社会全体のシステム改革につなげる方向である。
 また、それ以外の方向性として、高齢社会における安心安全な新たな社会システムの構築に向けた研究(第1期研究会①)と本研究会で検討課題となった情報システムの研究を統合して、ひとつの研究テーマにまとめるという方向である。

(2) 研究テーマの公募エントリー選考の結果

- ・地域の公共交通を担うバスと鉄道の事業者(4社)で情報交換等を行ってきた経緯を踏まえて、新たな関係者の参加や学生の視点を導入した枠組みにより、具体的に持続可能な公共交通のあり方について課題解決に向けた議論とそのとりまとめを行う。
 会員のバス会社2社と民営鉄道(バス兼業)が中心となりすでに当事者としての検討を重ねてきた課題であり、第1期の研究会①と②-2の第2期研究に関する要望、発展的な研究になると考えられる。
 ○地元の4事業者が中心となり実践的な研究会を行うイメージができる。
 ○第1期の研究会②-2研究会の今後の展開や、インバウンド観光研究との連携可能性が高い。
 ○面的観光やデータ解析と地域公共交通による実際の事業者や生活全体をつなぐチャレンジングなテーマになる可能性がある。

(3) 公募エントリーから派生した研究連携プロジェクトについて

- ・提案者：舞鶴工業高等専門学校長 内海 康雄氏
- ・研究テーマ：北近畿地域におけるSDGsを踏まえたコンパクトシティ構築への提言
- ・研究会は年3回程度で、可能であれば福知山公立大学で開催したい。
- ・研究会の具体的な活動内容は地域社会の課題解決に共通する要素から構成される仮説を元に、実際の地域社会における課題の解決に適用するためのメタモデルの検討と、それを具体的な地域課題(現在想定しているのは舞鶴市における地域防災)に適用した提言の取りまとめを地域の各セクターとの連携と高専の持つ全国的な専門家ネットワークを活用して行う。
- ・研究経費については北近畿地域連携会議に負担をお願いすることは無い形で研究活動を進めたい。

北近畿地域連携会議の健全な財政基盤づくりについての提案

会費制度について検討を進め、2019年度中に方向性をまとめる。

1 提案理由

(1) 第2期の活動の基本方針から

本会議は、第2期の活動の基本目標に会員の主体的な活動と会員間の連携を強化することによって本会議における活動の基盤を強化することを掲げ、またそれに基づく基本方針において、会議の持続的な活動基盤の整備方針として、①会員相互の連携や主体的な活動を支援する環境を整備するために、会員の意向調査を実施し、会員としてのメリットの充実強化を図る。②2019年度中に会費制度の創設に向けて会員の共通理解を形成し、制度化に向けて一定の方向付けを行う。

(2) 本会議の財政の現状

本会議の財政は、第1期において福知山市から福知山公立大学に交付された地方創生関連交付金に全額を依存していたが、将来的に当該交付金が減額され、最終的には補助制度自体が無くなることが予測されることから、外部資金等の獲得と共に早急に会議の運営経費の一定部分を自己財源として確保する必要がある。

自己資金についてはすでに本年度の研究会に一部会員による拠出金制度を導入することが予定されているが、安定した自己資金の確保については、会員から納入される年会費を原資とすることが望ましい。

以上の要件を踏まえ、本年度中に会費制度に関する検討を進め、会員の合意形成と具体案の策定に向けた方向付けを行うことを提案する。

2 2019年度における新たな財源確保のための対応

本年度の新たな財源確保に向けた対応は以下の通りである。

(1) 会員による研究会運営資金の拠出制度の創設

会員からテーマを公募のうえ、そのテーマに沿った研究会を設置し、当該研究会の研究費の一部または全部を当該研究会の参加者の拠出によって充当する制度を創設する。2019年度は1研究会がこの仕組みにより運営される予定である。

(2) 会費制度のあり方にかかる検討と方向付け

(3) 外部資金の獲得

福知山公立大学が企画し福知山市他2市が申請した総務省の「関係人口創出・拡大事業」モデル事業が同省から選定された。今後、福知山公立大学が事業の推進母体として福知山市から当該事業を受託する可能性が高いことから、同プロジェクトに含まれる北近畿地域の高校生・卒業生及び保護者等の意識調査などについては、今後第1期の高校生の郷土意識調査との関連を踏まえて、事業の受託ができるよう努力したい。

3 会費制度の検討に向けた課題

(1) 会員の基本意識調査の実施

第1期が終了し、第2期の活動が始まる時点を捉えて、第1期の活動に関する会員の評価、会員の入会の動機、会員が当会議に期待する役割、会議に対する会員の参加や参画のあり方、会員が求める会員サービスとメリット、などを見える化するためのアンケート調査を実施して、会費制度の基礎資料とする。

(2) 会員サービスと会員メリットの明確化

会費制度の検討には、会員が会費を支払うことに見合う直接的・間接的なメリットを本会議が提供できることが前提となる。その観点からは、第1期においては日常的な会員サービスや会員に提供されるメリットは不十分なものであったといわざるを得ない。

会費に関する検討を進めるために、前項のアンケート調査や個別のヒアリング等を通じて、会員サービスと会費制度の関係の整理や会員サービスのリストの策定を進める必要がある。

4 会費の検討に関する基本的な考え方

会費制度を確立するためには、何よりも会員への説明責任を果たすと共に、会員の理解と合意形成を前提とする制度の設計が求められる。

(1) 持続的な運営体制の確立

当面現状の会員数で本年度の運営費の50%程度を確保可能な制度設計とする。

(2) 会員の多様性に対応可能な会費制度の検討

多様な団体・組織・機関等が会員となっているため、シンプルで簡素な会費制度の理念を基本としつつ、会員の特性と利用可能なサービスやメリットとの関係を整理した基本設計を策定すること。

(3) シンクタンク機能に不可欠な機関・団体が参加しやすい会費制度の検討。

シンクタンクとしての社会的ステータスの確保に不可欠な機関等及びシンクタンクとしての活動を支援する企業や個人を一般会員と区別した会員制度とすること。

(4) 会員のほか外部から本会議の活動を支援する仕組みについての検討

5 会費に関する検討のスケジュール（案）

日程	項目	担当
5月28日	会費制度検討に関する提案 会員アンケート実施の提案	会員総会
6月末まで	会員アンケート案の決定	幹事会(メール審議)
7月中	会員アンケートの配布及び回収	事務局
8月中	アンケート集計・分析	事務局
9月	会費制度の試案の審議及び決定 試案の会員への配布 各研究会における意見集約	第2回幹事会 事務局 第2回研究会
2020年2月 まで	会費制度の総会提案の決定 会則改正案の決定	第3回幹事会
5月	会費制度の提案	2020年度会員総会

会員アンケートの設計にかかる質問項目(設問のテーマ) (案)

1. 会員にとっての北近畿地域連携会議
 - 会議への参加の時期と動機
 - 会員としての活動内容と参加頻度

2. 北近畿地域連携会議に対する評価と意見
 - 会議の活動の評価とその理由等
 - 会議に期待するもの
 - 改善すべき事項
 - 会議の活動によって得たもの
 - 期待したが得られなかったもの

3. 北近畿地域連携会議の活動の発展に対する意見
 - 今後取り組むべき地域課題
 - 今後取り組むべき会議の基盤強化
 - 今後取り組むべき会議の運営の改善点

4. 会員サービスのあり方について
 - 会員サービスの認知度
 - 会員サービスに関する要望
 - 会員であることのメリットは何か

5. 会費制度について
 - 会費制度の可否について
 - 会費制度設計のあり方について
 - 会費制度に関する意見

年号表記の特例について

1. 提案趣旨
本年度は年度の変更時点と年号の変更時点が異なるため、事務連絡等の発信年月日と事業等の実施日時等が元号では混在して混乱する可能性があるため、本年度に限って西暦を基本とした年号表記とすること
2. 提案内容：
本年度に限って、すべての文書の年号表記を以下のようにする。
20〇〇年（平成、あるいは令和）月〇日

2019年度 北近畿地域連携会議 会員総会 出席者一覧(会員)

<会員>

※敬称略

研究会	団体名・企業名	会員総会出席者			
		役職	氏名	役職	氏名
①	京都工芸繊維大学	理事・副学長	吉本 昌広		
①	日東精工株式会社	監査部監査課長	布川 貴英		
①	京都中小企業家同友会 (北部地域会)	会長	山下 武志	事務局次長	深田 泰弘
①	福知山公立大学	学長	井口 和起		
②-1	株式会社但馬銀行	法人営業部長	野崎 克彦		
②-1	舞鶴商工会議所	中小企業相談所 次長兼総務課長	西村 佳哉		
②-1	綾部商工会議所	専務理事	塩見 勝美		
②-1	与謝野町商工会	副会長	岸部 敬		
②-1	西日本旅客鉄道株式会社 福知山支社	執行役員 福知山支社長	漆原 健	地域連携推進室長	白石 和範
②-1	独立行政法人国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校	校長	内海 康雄		
②-1	京都職業能力開発短期大学校	特任能開教授	加畑 満久		
②-1	京都府立林業大学校	副校長	木村 均		
②-1	京都北都信用金庫	理事長	森屋 松吉	常務理事 部長	足立 涉
②-1	特定非営利活動法人 京都丹波・丹後ネットワーク	副理事長	森田 洋行		
②-2	但馬信用金庫	常勤理事 事業支援部長	宮垣 健生		
②-2	株式会社京都銀行	支店長	村上 央	室長	安部 孝幸
②-2	WILLER TRAINS株式会社	代表取締役	寒竹 聖一		
②-2	福知山市商工会	総括主事	衣川 浩行		
②-2	但馬地域商工会振興協議会	会長	奥藤 博司		
②-2	一般社団法人 京都府北部地域連携都市圏振興社	総合企画局長	宮田 英樹		
②-2	兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科	研究科長	佐川 志朗	経営部長	高垣 正広
②-2	株式会社丹後王国	代表取締役社長	中川 正樹		
②-2	全但バス株式会社	常務取締役	村上 宣人		
②-2	但南建設株式会社	支店長代理	清水 学		
②-2	アヤベックス株式会社	代表取締役	佐々木 崇人		
②-2	株式会社清輝楼	代表取締役	徳田 誠一郎		

2019年度 北近畿地域連携会議 会員総会 出席者一覧(来賓・オブザーバー)

<来賓>

京都府中丹広域振興局	企画振興室長	鎌田 誠		
京都府丹後広域振興局	企画総務部企画振興室副室長	桐村 博明		
兵庫県 但馬県民局	地域政策室長	河本 要		
兵庫県 丹波県民局	県民交流室総務防災課班長	河合 耕平		
福知山市役所	副市長	伊東 尚規		
	市長公室長	渡辺 尚生	大学政策課長	岸本 範義
	大学政策課係長	井上 智行	大学政策課主事	倉 寿和
舞鶴市役所	企画政策課長	山本 仁士		
綾部市役所	企画総務部企画政策課課長補佐	鎌部 秀樹		
宮津市役所	企画財政部企画課主査	中村 真由子		
京丹後市役所	政策企画課長	谷口 敏典		
与謝野町役場	企画財政課係長	成毛 克明		
伊根町役場	企画観光課長	千賀 和孝		
養父市役所	理事兼市民生活部長	本間 孝子		
朝来市役所	市長公室長	天野 修二		
丹波篠山市役所	企画総務部創造都市課長	竹見 聖司		

<オブザーバー・研究協力者>

福知山市役所	建設交通部都市・交通政策課長	山中 忠雄		
京都府立福知山高等学校	副校長	土手 敏通		
兵庫県立出石高等学校	校長	椿野 亮二		
兵庫県立和田山高等学校	校長	児嶋 克巳		
京都府北部校長会(中丹地域) 京都府立西舞鶴高等学校	教諭	本藤 聡仁		

<福知山公立大学 包括協定団体>

三和地域協議会	事務局長	岡部 成幸		
夜久野みらいまちづくり協議会	会長	衣川 裕次		

<福知山公立大学 関係者>

福知山公立大学	特別顧問・理事	大槻 秀明		
福知山公立大学	研究経営審議会委員	村上 裕子		
福知山公立大学	特命教授	井上 正嗣		
福知山公立大学	教授	岡本 悦司		
福知山公立大学	助教	江上 直樹		

北近畿地域連携会議第2期 幹事(案)

団体・機関名、役職	氏名
京都北都信用金庫 理事長	森屋 松吉
但馬信用金庫 理事長	森垣 裕孝
JR西日本旅客株式会社 福知山支社長	漆原 健
WILLER TRAINS株式会社 代表取締役	寒竹 聖一
福知山公立大学 学長	井口 和起
京都工芸繊維大学 学長	森迫 清貴
兵庫県立大学大学院 地域資源マネジメント研究科長	佐川 志朗